阿武郡報

第六十二號

大正十一年三月廿四日印刷
大正十一年三月廿五日發行
發行所　山口縣阿武郡役所
山口縣阿武郡萩町
第二千二百六番屋敷
印刷所　萩　響　海　館

目　次

□表彰
□庶務
一町村長集會……三
一家産財團の造成（其一）……九
□學事
一町村長小學校會同集會……一六
一阿武郡青壯年團幹部養成講習會
□産業
一鎌入不足の原因と當業者の覺悟……二〇
一德佐村農事研究會の設立……三〇
一稻作改良宣傳歌……三〇
一岡山縣に於ける小山氏果樹栽培法……三四
一甘藷採種圖に就て……四四
□兵事
一大正十年陸軍入隊及事故者……四八
一大正十一年海軍志願兵成績……四八

表彰

二月十一日紀元節に當り本縣知事より表彰せられたる教育效績者及優良青年團左の如し

▼教育効績者

阿武郡育英尋常高等小學校訓導兼校長　大石新一

多年小學教育に從事し其效績顯著たり仍て金五拾圓を授與し之を表彰す

大正十一年二月十一日

山口縣知事從四位勳三等　橋本正治

事蹟概要

阿武郡育英尋常高等小學校訓導兼校長　大石新一

資性着實剛毅身を持する謹嚴事に當りて熱誠一貫常に修養に力め識見を養ひ意志强固にして所信を敢行し成果を見されは息まさるの慨あり

明治三十八年山口縣師範學校を卒業し同年四月阿武郡椿東小學校訓導に任せられ克く學校長を輔佐し忠實恪勤學校内容の改善向上に努む後拔擢せられて同郡嘉年小學校訓導兼校長となり爾來同郡福田宇田小川の各小學校に歷任し大正九年四月現任校に轉す其間正に十有七年終始克く職務に精勵し到る處其の成績見るへきものあり

嘉年小學校に在りては一般民をして教育を理解せしめむとし當時に於ては他に類例稀なる部落學藝會等を催して只管教育思想の啓發培養に努め良好なる効果を齎せり

翌年福田小學校に轉ずるや教育者不斷の修養向上は教育振興の要諦なるを確信し修養會を組織して職員相互の磨礪研鑽に力め研究氣分爲に著しく作興し兒童成績の實際に一段の進展を見るに至れり又餘力を實業補習教育に致し内容の刷新充實を圖り舊來の補習教育爲に面目を一新せり

在任四年にして宇田小學校に轉するや學校家庭の連絡を圖り父兄の教育思想を喚起することに努め言語の改良學用品の取扱等に關しては極めて良好なる効果を收め同校兒童の氣風著しく革まれり其他社會教育方面に於ても日夜盡瘁する所あり特に父兄村民の信頼を博せり

大正五年小川小學校長に任せらるゝや自學主義の教育を鼓吹し學習帳を特定する等學習態度の改善に意を致し又青年團補習教育に餘力を傾倒し幾多の困難を排して朝學の實施團體見學武道奬勵等拮据經營し青年團員の自覺奮勵を促し異數の良成績を收む

大正九年現校に赴任するや比較的教育上至難の事情ありしに拘らず克く内容の改善充實と補習教育の普及徹底を策し職員一致之に膺り着々實績の向上を見るに至る

小學校方面にありては教授訓練上の缺陷を精査し之か刷新を企圖し或は他府縣の共同視察を行ひて彼の長を採り或は研究協議を重ねて最善を盡し所信を斷行して躊躇せす熱誠一貫努めて倦ます爲に兒童の學習態度著

しく緊張し一般父兄の教育思想漸次向上し其の成績見るへきものあり就中體操科理科に關する施設實績に至りては其の進歩特に顯著なるものあり

補習教育方面にありては時代の要求に鑑み之か振興徹底を期し教材を適切にし方法を改善し專ら其の内容の刷新を圖り効果漸く現はれむとするに至れり

任を現校に受けて以來日尚淺く其の成績尚將來に屬するものありと雖其の不斷の修養向上の努力と熱誠眞摯なる態度と職員の和衷協同の美風とは相俟つて着々各方面に成果を收めつゝありて村民父兄の信頼日に厚きを加ふ

庶務

□町村長集會

二月廿日郡内町村長集會を郡會議事堂に開催せり當日郡長より指示したる事項其の他左の如し

▼指示事項

一、大正十一年度郡事業施設に關する件

本年通常郡會の協賛を經たる大正十一年度本郡施設經營事業は郡制廢止の曉を考慮し一面現下の狀勢に鑑み積極的方針に依り益々地方行政の徹底及自治の伸展を期せむとす左に其の梗概を掲けて各位の參考に資す

一、衞生事業の施設

郡立萩看護婦講習所は大正十年度より郡設となし爾來其の成績良好なり本年度に於ても益々諸般の設備を整へ内容を充實に完全なる看護婦の養成を圖らんとす

二、地方改良事業の施設

(イ)優良團体及功勞者の表彰

本年も前年通り優良團体及功勞者の表彰を行ひ益々地方行政の伸展を期せむとす

(ロ)講話

名士の來郡を機とし講話會を開催して社會教化に資せむとすること前年の如し

(ハ)視察

郡内自治、教育、産業に關する適任者十人を選拔して往復二週間の豫定を以て本年三月十日より七月三十一日迄東京に於て開催の平和博覽會を視察せしめ一人に付金八拾圓宛旅費を支給す

(ニ)郡報發行

從來郡報の編纂に就ては內容の改善に相當注意する所あり各位亦之か利用に努められたし

(ホ)神職會及佛敎團補助

本郡神職會及佛敎團に對しては地方改良及感化救濟事業の徹底實行を期せしむる爲め本年も郡費を以て補助し其の目的を遂行せしめんとす町村に於ても該會の主なる事業たる講演會の開催及町村支部事業の一たる免囚保護事業に對しては相當援助せられんことを望む

三、勸業の施設

(イ)產業職員の件

大正十年度と同樣普通農事二、養蠶二、畜產二、耕地整理二、林業二、水產一、計十一人及主事補一人にして郡勸業の助長奬勵に當らしむ

(ロ)製炭傳習開設の件

郡內二箇所に於て開設せんとす一個所三週間宛

(ハ)製茶傳習開設の件

郡內福川德佐兩村に於て敎師を郡より雇入れ製茶傳習の開設の豫定

(ニ)各種團体の事業助成の件

一、阿武郡農會　一千三百圓

二、阿武郡產業畜產組合　六百圓

三、同養蠶組合聯合會　三百圓

四、同水產會　八百圓

(ホ)耕地整理奬勵費にす關る件

耕地整理組合にして郡長指定の事務員を雇入るゝものに對し奬勵金を交付す

(ヘ)養蠶組合奬勵費の件

一町村內二十人以上の組合にして共同施設をなし養蠶敎師を雇入るものに對し其の敎師給料の三分の二の割合の奬勵費を交付す

(ト)竹林改良奬勵費の件

郡內竹林にして改良を爲すものゝ爲めに左記の標準に依り奬勵金を交付す

一、苦竹林整理　一反步　十五圓

二、同　更新　仝　四十圓

三、同　增殖　仝　三十圓

四、孟宗竹培養　同　四十圓

(チ)勸業技術員設置奬勵の件

町村又は町村農會設置技術員に對し一人平均八十圓の標準により奬勵金を交付す

(リ)畜產共進會出品奬勵の件

左記の通り本年開設豫定の畜產共進會に對し奬勵費を交付せんとす

一、馬匹共進會出品馬に對し一頭に付三十五圓宛奬勵費を交付す

二、平和博覽會畜牛出品に對し一頭に付六十円宛奬勵費を交付す

三、中國六縣聯合畜產馬匹共進會出品に對し一頭平均四十圓宛の奬勵費を交付す

(ヌ)講習及傳習生奬勵の件

本縣農事驗試場講習部講習生、及工業試驗場傳習生其他に對し左記の通り奬勵費を交付す

一、農事試驗場甲種講習生　一ケ月八圓

仝　乙種講習生　一ケ月五圓

二、工業試驗場木工傳習生　一ケ月八圓

仝　竹細工傳習生　一ケ月八圓

三、茶業傳習生　一日四拾錢

四、水產試驗場製造科傳習生　一ケ月八圓

(ル)品評會奬勵の件

前年と同樣町村聯合品評會を奬勵するため賞狀を交付す

四、土木事業

(イ)土木職員の件

前年と同樣土木技手二名(一名兼務)建築技手一名を設置し土木建築に從事せしむ

(ロ)郡道路橋梁修繕の件

一、郡道德佐停車場線外十二路線砂利置の爲め費金二千六百參圓を揭上し路面の十全を期し度く又欠所崩土取除測溝堀渫を要する爲め費金千百五十四圓を揭上し之が修繕を爲さんとす

二、橋梁に於て萩明木線外全線の修繕の爲めに九十圓を揭上し又萩地福線長田橋外四橋の修繕の爲めに九百四十圓を揭上す

(ハ)道路工夫設置の件

前年と同樣道路工夫三名を置き一ケ年吾宛勤務せしむ

(ニ)橋梁架換に關する件

萩佐々並線京床橋外三橋の架換を爲すため經費四千三百七十一圓を揭上し其の經費の半額は關係町村の寄附に依らんとす

二、大正十一年度縣勸業施設事項に關する件

(イ)農事試驗場施設に關する件

十年度より優良農具の購入紹介をなせるか十一年度に於ては主として調製器の購入紹介することゝせり

(ロ)原蠶種製造所講習生の件

講習生事業補助手當は從來の支給額にては之か募集困難なるを以て日額二十五錢を三十五錢に增額せり

(ハ)種畜場施設に關する件

一、種畜委托蕃殖事業開始

近時役肉用種牛需要增加の趨勢に鑑み新たに縣有種牡牛繁殖事業を開始す其の方法の概要左の如し

毎年十二頭宛種牛を購入育成し之を民間に委托し種牡牛を指定して蕃殖を行はしむ

飼養管理及種付料其他必要なる費用は一切委托者の負擔とす

生產したる犢は一ヶ年以內受托者に飼育の義務を負はしめ縣有となすの必要と認めたるときは相當の價格を以て之を買上け牡は育成の上縣有種牡牛として貸下又は拂下をなし牝は縣有種牝牛として委託蕃殖に供し又は拂下をなす

委托種牡牛は四五回分娩をおしたるときは之を委托者に相當の價格を以て拂下くるものとす

以上の方法により委托開始後五ヶ年目より毎年四十頭の生產犢を得其の約八割を縣有種牛となすべきものとす

二、肥臙試驗事業の擴張

從來民間預托牛を以て之を行ひ來りしか屠殺試驗用に供する能はさるを以て明年度より更に供試牛を購入の上試驗の徹底を計ることゝせり

三、種牡馬增加及種付所設置

近時吉敷、佐波、厚狹等の各郡に產馬事業開始の意向あるを以て從來繫養せるものゝ外新たに一頭の國有種牡馬を借受け新產馬地に種付所を設置し之か發達を促進することゝせり

(ニ)各種奬勵費に關する件

一、蠶絲業奬勵の件

養蠶組合中稚蠶用共同桑園の準備を缺けるもの多く之か爲め稚蠶期の生育を不良ならしめ或は徒らに勞費を要する等の不利益あるを以て縣下二百餘の養蠶組合をして平均二反步宛の稚蠶共同飼育用桑園を設置せしめ五ヶ年を以て之か完成を期するため一反步に付金拾五圓の奬勵費を直接養蠶組合へ交附することゝせり

又十年度より開始せる經濟的蠶兒飼育法傳習所成績良好なるを以て其の設置個所を增加し六ヶ所となし一ヶ所に付金二百圓を補助する見込なり而し

て從來の桑園改增殖奬勵費及繭市場乾繭裝置に對する奬勵費は之を廢止す

二、畜產奬勵の件

種牡牛購入奬勵費は三百圓優良牝牛購入保育奬勵費に五百五十圓を增加し又種馬購入保存奬勵費及豚肉加工奬勵費を增額又は新設せり

三、米麥採種圃奬勵の件

從來採種圃の經營は米は二次麥は三次制に依り實施せしも米麥共に之を一次制に更め農家總戶數の約三分の一卽四万五千戶に對し一戶當平均米は一升麥は五合を配布し以て一農家に對し三年毎に原種を配布することゝせり而して之か交付の方法は從前と同しく主要食糧農產物改良增殖奬勵費交配規則に依るものなり

四、樹苗養成奬勵の件

樹苗養成事業は近時大いに發達し奬勵費申請者頗る多數に上りたりと雖も未た小規模のもの多きを以て明年度よりは主として郡市町村若は郡市町村農會等の共同經營事業を奬勵することゝし制限面積を擴大することゝし又松苗養成に對しても奬勵費交付の途を開き金壹千圓を增額せり

五、荒廢地復舊奬勵の件

荒廢地復舊事業中地盤保護のため工事又は植樹の急を要すへき荒廢地約千二百町步に對し政府の治水計畫に對應し其の繼續年期中に之か完成を期せんか爲明年度に於ては其の施行豫定面積を增加し奬勵金壹万圓を增額せり

六、特用作物、製茶、公有林造林奬勵の件

從來の成績に鑑み特用作物試作奬勵費は之を廢止し製茶及公有林造林奬勵費は之を減額せり

(ホ)森林基本調査の件

明年度に於ては一町村を調査區域とし從來に於ける林業各般の施設を實査し以て今後に於ける施設事項の基本を得且つ治水關係地に在りては治水處分及治水事業計劃の大体を定めんか爲縣內數ヶ町村(三乃至五ヶ所の豫定)を選ひ森林基本調査を行ふことゝなれり

(ヘ)害虫驅除豫防の件

螟虫驅除豫防の効果を有効ならしむるには之か發生の時期を豫察し合理的一齊驅除の方法に出つるを必要とするを以て本年より縣下十一ヶ所に螟蛾發生豫察燈を設置することゝなれり

(ト)藥用植物調査に關する件

大正八年度以降縣下の山野に自生する藥用植物の調査を行ひつゝありしか本年度を以て終了せり其の調査成績に付ては印刷物を作製頒布の豫定なり

(チ)水産業奬勵費に關する件

水産業奬勵費は從來壹万圓なりしも八千圓に減額し養干鰮製造用竈設置及共同出漁に關しては特別なる設備又は計劃あるにあらされは交附せさることゝし其の他は從前の通とす

(リ)縣水産會に關する件

山口縣水産會に對し新に參千圓の補助費を計上し從來の水産組合補助金は之を廢止せり

(ヌ)染色講習所に關する件

從來實施し來れる講習實地指導試驗及依托事業等を益々擴張する計畫を以て技手、助手、職工等を增員し又寄宿舍を改造して織物準備工場其の他に充て尙手織機を貸與して講習開設の利便を圖り一面織物同業組合をして講習所と相呼應して斯業の向上を期せしむる爲之に對する補助額を增加せり

(ル)商品陳列所に關する件

商品陳列所は本年三月迄に陳列を了し四月より事業開始の豫定にて左の事業を施行する計畫にして事務所は下關市西端町に設けられたし

一、商品又は參考資料を陳列して公衆の觀覽に供すること

二、實業に關する圖書其の他各種の印刷物を蒐集して閲覽に供すること

三、商品取引の紹介又は貿易實務の幇助を爲すこと

四、商工業に關する質疑に應答し調査研究をなすこと

五、商工業に關する報告案内等を發刊すること

六、廣告及店舗裝飾に關する意匠圖案を助成すること

七、展覽會講話會研究會等を開設すること

八、縣下工産品を卽賣すること

(オ)副業奬勵に關する件

副業品展覽會は畧豫定計畫の遂行を了したるを以て本年度に於て之を打切り明年度よりは副業に關する技術を授け從業者の養成をなすため各郡市に一回十日間の豫定を以て之か指導實演會を開催せらるゝ計畫なり而して事業の種類及開設時期に關しては事情の許す範圍に於て地方の希望を容れらるゝ見込なり

又開設地の負擔は會場借入費材料費及薪炭費なりとす

(ワ)實業懇談會に關する件

縣下産業に密接の關係ある官廳各種團体並敎育機關の幹部員相會し相互の意思の疏通と事業連絡を圖るは本縣産業の改善發達上洵に緊要事なるを認め十一年度より年數回懇談會を開催せらるゝ計畫なり

(カ)農業倉庫の普及に關する件

農業倉庫の普及を圖るため其の補助を厚くするの必要を認め補助費五千圓を增額せり而して其の補助步合は約四割の見込なり

▼協議事項

一、防長海外協會會員募集の件

二、實業視察に關する件

三、馬匹共勵會設立の件

□家産財團の造成（其一）

國民の思潮變化し生活亦安定を缺き之が解決は俱に民衆焦眉の要求にして近時社會問題の大に研究せらる所なり今や國は各種社會事業を助成奬勵し富裕亦産を投じて問題の解決に資せんとする者續出するに至りたるは喜ふへきことなり昨夏本郡主催に係る社會問題講演會講師たりし京都大成協會主幹山下信義氏は社會問題の功蹟者とし夙に人の知る所にして就中其の成案に依る家産財團造成の如き同氏が率先して席暖まる暇なき迄に宣傳に努力せられたる結果其の反響も實に著しく今や全國各地の至る處に家産財團の期成同盟會の設立を見るに至れり

一、家産財團とは何であるか

二、家産財團はふせ造らねはならぬのであるか

三、どうすれは五万圓といふ大資産が易々と積立てられるのであるか

同氏は以上三項に對し分りやすく說明し如何に赤貧洗ふか如き人にても必らず之を造り得へく安全堅固の大道を示されたる如きは寔に機宜に適したるものと謂つへく左に廿二の說明を記載す今後社會の實情と民衆の要望とに鑑み施設すへき事項は甚た多きを覺ゆ本郡内に於ても斯る計畫の普へ實現せんことを切望に堪へす

家産財團造成の目的

▼未解決の大問題

ズッと世間を見渡すと、先づ以て多くの人の、金儲に熱中してゐることが目につく、少數の怠惰者を除いては十中の九人迄、富めるも貧しきも、老いたるも若きも、男も女も、皆金を儲けたい産を積みたいとの希望より、汗を流し脂を絞つて寒暑と戰ひ困難と戰つてゐる。

そこで其人等に尋ねてみる。「一體貴君はなぜそんなに金が儲けたいのですか？」と。すると大抵の人は、「自分や子孫が安樂に暮したいからであります。」といふ。成程、御尤の事だ。何人も安樂幸福に暮したいは出來である。然るに尙一歩切り込んで、「其安樂な暮しをはどういふ生活ですか？」と反問する。すると又多くの人は「遊んで

食ふ事でさ。」と答へる

さあ、こうなると問題が起る。私等も安樂幸福な生活といふことには、双手をあげて賛成をする。然しそれは結局遊んで食ふことだと言はれると、賛成は出來かねる賛成の出來かねる所ぢやない。大反對だ。遊んで食ふ、マア何といふ横着なことだらう。考へて見給へ。世間の人が皆遊んで食ふといふ事になれば、社會は一體どうなるか。つづまる所は共々に飢え死をする外はなからう。今日は一部の人々が遊んで食つてゐる。けれ共之は一方で一人前以上の働をしてくれてゐる人のゐ蔭である。ミラボーの言つた樣に、人間は働いて食ふか、貰つて食ふか、又は盗んで食ふかの三つより外に食ひ樣がない。だから働かずに食ふ人は、惡口を言ふ樣だが、乞食か盗人かのどちらかである。働ける人が手を拱いて遊んでゐるといふ事は、たとへ其人が華族であつても、金持であつてもよろしくない

どうも世間の人は金を儲ける目的をまちがへてゐる樣である。何故に資産を積まなければならんかといふ大切の事が分つてない。此大問題が古來多くの人には未解決のまゝで横はつてゐる。そこで私は先づ此問題を捕まへて本當の意義目的を明かにしやうと思ふ

▼勤勞所得が原則

人間の所得には、勤勞所得と不勞所得との二つがある農業・商業・官吏・教員等をして働いて儲けるものは前者である。小作米や、貯金の利子や、株券の配當等働かなくとも自然に入つて來るものは後者である。扨此二つの收入の中の、どちらで生活するが本當の生活であるか

吾人は勤勞所得で生活する事を以て、其原則としなければならぬ「花になり實になる見れば草も木も、なべて務のある」世の中だ、草木にさへも務があるに、人間が遊んでゐてもよいといふ道理はない。不勞所得で生るのは廻蟲と同じ寄生々活である。金持たらうが、貴族たらうが、若し其人が不勞所得で生きてゐる以上、其人は正しく社會の寄生蟲である。世の中の害蟲である。米に湧く穀倉と變りはない。働くことは人の道である。ろくて働けば祿其中に在る。勞働のある所、そこには當然報酬がある。其報酬で生活するがすべての人の常の道でなければならぬ。活動は人間の目的でもあり、必要でもあり、又神聖なものである。

各人は活動によつて其心身を健全にし、其社會を善良にし、かくて自他共に幸福なる生活をするのである。故に古人も、一日働かずんば一日食はず、天下何處にか飢

うる者あらん。」と申された。誠に此通りである。勤勞所得で生活を立てゝ行くといふ事は、實に萬人に通ずる根本的の原則である。

▼家産は萬一の用意

働いて食ふが生活の原則であることはよく分つた。然し時としては働いても尙食へぬ場合がある。近頃の樣に物價が高くなると、安い月給を取つてゐる人は直く鼻の下が乾く。子洪がヒモジイといふ、妻が悲しいと言つて泣く。五等米と漬物ばかりで押え通しても、裏町住ひの家賃が拂へぬといふ樣な事にもなる。よしやこれ程迄に極端ではなくとも、不安と不健全とは免れる事が出來ぬ親に對する孝行も、友人に對する義理も、到底つくされぬといふ事になる。又人間は病氣や災難に罹ることもあるが、平生から九尺二間のわび住ひで細い煙を立てゝゐては、一朝病氣や災難に遭へば忽ち困る。妻子は明くる日から乞食同然の身の上になる。之れ卽ち叩き止めば食ひ止むといふ者である。何事かゝあると、直ぐ樣國家の厄介人である。

吾人はかゝる身の上にはなりたくない。其日暮しでは心細い。貧して鈍する事は厭だ。「恒産なき者は恒心無しと」孟子も言はれた通り、貧乏はともすれば其精神を卑しくする。然し其樣な人間になる事は好まぬ。然らばどうすればよいか。躓づいても倒れぬだけの用意をする外はない。思はぬ不幸が振りかゝつて來ても、安全に行けるだけの準備を造るが第一である。此用意此準備は卽ち家産である。家産は家の財産であるから、其收入は不勞所得である。故に原則として之で生活するのではない。ただ萬一の用意である。ころばぬ先の杖である。つまり家産の所得で暮すことは例外ではあるが、然し例外だからと言つて家産が必要でないといふ事は決してない。

▼五項十目

扨其例外の場合を詳細に調べ上げてみると、次の五項十目になる。之は私の非常に苦心して整へたものである。名のつけ方は或る場合に發表したものと多少變つてゐる所もある

一、病傷治療基金（一）疾病療治（二）傷害治療
二、相互扶助基金（一）老幼扶助（二）冠婚葬祭
三、子弟教育基金（一）學校教育（二）社會教育
四、生活調節基金（一）收入進少（二）失業補給
五、凶荒豫備基金（一）天災地變（二）社會變動

以上何れも説明を俟たずして了解し得るもの計りである。ただ一つ生活調節基金のみは、一言御注意を申上る必要がある。生活調節費は生活費ではない。調節費といふは、例へば一家五人の生活費が一年に壹千貳百圓要るといふ時に、其收入が少くて壹千圓より無いとすれば差引貳百圓だけ不足する。其時に不足の貳百圓を補給するのが調節である。生活費の全部を遺産として子孫に殘すは遊んで食へといふ默示である。然し遊んで食はせる必要は少しもない。ただ不足する際にのみ足すことにすればよいのである

五項の用意十目の準備があれば、十分に健全安定の生活をすることが出來る。少くとも金錢の不足より生ずる一切の困窮と惡魔とを追ひ拂ふことが出來る。家產としては此中の何の一つをも缺くことは出來ないが、又此上に加へなければならぬ何物もない。よし又假りにあるとしても、上の何れにか包含せしめることが出來る。故に萬人の願ふ子孫の幸福一家の繁榮は、以上に於て完全に保證せられてゐるのである。

▼目的ある金を遺せ

今日迄、短い一生で驚く程の大資產家、大分限者になつた人は少くない、其人達は大自慢で此資產を自分の子孫に遺して死ぬ。然し惜しいかな、家產なるものは何の爲に必要かといふことを知らず、ただ漫然と子孫に遺すから、隨つて子供も漫然と之を使ふ。酒にも使ふ。女にも使ふ。自分が苦勞をして作つた金でないから、湯水を使ふが如くに撒きちらす。そこで早いものは親の居る中から家が傾く。遲くとも「賣家と唐樣で書く三代目」で、大抵は孫の代で元の一文無しに戻る。之はといふも皆何が爲に財產を遺すかと言ふ大目的が定まらぬからである

そこで或人は「どうせ三代保たない身代ならば、始めから其樣な苦勞をして造る必要は無いぢやないか。」といふ悲觀說を立てる。之が卽ち家產無用論といふものである。けれども此無用論はよくない。子孫の爲に一定の資產を積む必要は慥にある。唯之を積むには、第一に立派な目的の下に之を貯へること、第二には子孫にもよく此目的を言ひ傳へて、無駄使ひをせぬ樣にし、且つ家憲を作つてその維持使用に關する掟を定める事が大切である

然し之だけの事をしても尙不肖の豚兒が生れて來て、折角の財產を壞すやうなことが無いとも限らぬから第三には法律上で之を保護する必要がある。西洋の家產法と申すのが卽ち之である。けれ共我國にはまだ此法律が制定せられて居ない。私等は是非共此法律を造りたいものだ

と考へて蔭ながら大に盡力を致して居るのであるが、ともかくも目下之の無い以上は、止むなく上の二つによる外はないのである

▼家產には限度がある

飜つて以上の五項十目を見るに、計算の出來ないものは一つもない。何れも皆これ位あれば十分だといふ見當がつく。例へば病傷治療基金にしても、各人平均どれ位の金の要るかが分らねば、疾病保險や傷害保險の成り立つ筈はない。凶荒の豫備費も、家道の振興費も概略の見定はつく。生活調節費も前申す通り、生活費の不足を補助するものであるからして、大畧其二割か三割かがなればよい。然るに生活費は計算が出來る。隨つて調節費も勘定し得る譯である。子弟の敎育費も、小學校で何程、中學校、高等學校、大學で何程かが分る。各項皆計算が可能だから、全體の金高も勘定が出來る。各項の最大限を算出し得れば、家產其物の最大限も算出し得る。尤も是等を精密に計算して、何錢何厘迄も定めると言ふ樣なことは出來ぬ。けれ共推量の概算で事は足りる。幾らか多い目に計算して置けば宜しい。人間は奢れば際限がない拾圓札で尻をふいて自慢をする馬鹿者には。何程あつても足る道理がない然し我々は子孫に奢りをさせる爲に金を殘すのではない。さういふ金を殘すことは、結局子孫を墮落させ苦勞させることになる。眞實子孫が可愛いならば、其樣な愛に溺れた不親切はせぬがよい。家產には限度がある。此限度の有る所をよく〳〵讀者諸君に了解して貰ひたい

▼最大限金五萬圓

そこで愈々幾らあれば十分かといふ最大限度を示すことにしやう。一體之は其國が開ければ開ける程、比較的に少くてよい。と言ふのは國が文明になると、保險其他の相互扶助の方法が發達するから、一軒の家がそれ〳〵に多額の用意をする必要がなくなる。然し我國は尙此點が十分に發達はして居らぬ。且つ將來物價が騰貴するかも知れない。故に大きく見積つて各項壹萬圓、五項合して五万圓といふことにする。これならば相當家內の多い家でも、大丈夫である。公債は普通五分利であるが、額面とは安く買へるから、實際は六分三厘位の利廻りになる。故に公債にした所で壹万圓の元金に對して毎年六百參拾圓の收入がある。三年に一度大病に罹つて病院へ入るとしても、六百參拾圓の三倍たる壹千八百九拾圓といふ金がある五項の中で一番多く要るものが敎育費であるが、之とても結婚した時からの利金を其心懸で殘してさ

へ居れば、三十年目には四萬五千圓になるからして、長男が大學、次男が高商、其次が高等女學校、其次が中學小學に、ズラリと竝んでゐても不足はしない。尙又一定の範圍に於ては各項目の間に多少の融通をしてもよいから要するに五項合して五万圓あれば、家産としては十分だと云ふ事になる。五分利にして年々貳千五百圓、六分參厘にして參千百五拾圓の收入がある、働いて儲ける上に尙これだけの收入があるから、之で健全安定の生活が出來ないといふ筈はない。若し之でも尙出來ないとすれば、それは金の足りんのではなくて人間が足りんのである。人間が足りんと言ふのは、遊んで食ひたい、酒を飲みたい、妾を置きたいといふ連中の事で、此樣な人には幾ら與へても底拔の桶に水を入れる樣なもので、足る筈はないのである。

▼効用遞增遞減の法則

此說を聞いて或人は言ふかも知れない。「成程五万圓あれば十分だと言ふ事は分つた。けれ共、拾万圓、貳拾萬圓乃至百萬圓もあれば、大は小を兼ねるから一層良しいではござらぬか」と。けれども之は中々以て宜しくない。過ぎたるは猶及ばざるが如しと孔子も申された今此事を譬を以て說明を致さう。

例へば田に肥料を入れる。一反に五圓よりは拾圓入れる方がよい。拾圓よりは貳拾圓の方がよい。或田では尙貳拾圓よりも參拾圓入れた方がよいかも知れない。然し大は小を兼ねるからといつて、一反の田に四拾圓、五拾圓、六拾圓と豆糟あり油糟なりを入れたら如何なるか。それこそ土はグッ〳〵になつて、稻の根は悉く腐つてしまふに相違ない。人間の食ふ御飯にしても其通りで、茶碗に一つや二つでは、腹が承知をせぬ。正午にならぬ前からクー(食ふ)といふ音を立てる、それで三椀なり五椀なりを食ふと丁度宜しい。然るに此人をして無理矢理に七杯も八杯も食はせたらどうか。必ず病氣になるであらう。いくら消化のよい薯粥だからつて、十杯も二十杯も食べて、俯向くと口から出るといふ樣では滋養にもならぬ。教育費も其通りで、目下大學生ならば大抵五拾圓か六拾圓を使ふ。然るに多い方が宜いからといつて毎月百圓も貳百圓も送れば如何。此學生は酒でも飲んで早く本月分の學資を使つてしまはないと、又來月分が來て困るといふ譯、隨つて出來るだけ夜遊びでも長くして、此金を消費せねばならぬこと。成程之でも勉强はしやうが、トンデモナイ方角違ひの勉强をするのであらう。

凡そ物は或程度迄は、有れば有る程良いのであるが、

一度其或程度をこせば、今度は有れば有る程惡いのである。學者は之を効用遞增遞減の法則(ロー、オブ、インクリージシケ、エンド、ディミッ、シングリターン)といふ此法則のある以上、家産は五萬圓を越すことはよろしくない。それ以上は單に無用の長物ではなくて、むしろ有害の長物である。

▼知足感謝の生活

他の事には限度があるが、金だけは幾らでもほしいといふのが人情の弱點である。壹千圓でも足らぬ。壹万圓でも足らぬ。百万圓でも足らぬ。足らぬ足らぬで暮して居るから、何時になつてもケチ臭い。「金持と掃溜はたまる程汚くなる。」と世俗にも言ふ。けれ共之では一向金持の價値がない。自分でも滿足だ結構だと思ひ、世間から有り難い旦那だと言はれてこそ金持らしい所もあるが、生れてから死ぬる迄、慾の皮の張りさけさうな人間だと言はれては、人としての價値もなく、又金を待つたゞけの德もない。

「足るを知る」が大切である。足るを知るから滿足があり感謝がある。此滿足此感謝があつて、こゝに救貧恤民の善事善行も出來るのである。守錢奴と富豪との差は、足るを知ると知らざるとの違ひである。「富卽人生」と解して徹頭徹尾宝さへあればよいといふのが守錢奴である。富豪は足るを知る。足るを知るが故に貪らぬ。貪らざるが故に何處にか清廉潔白な所がある、何處にか寬仁宏量な所がある

諸君は是非共足るを知らねばならぬ。足るを知るには家産の最大限を知らねばならぬ。而して家産の最大限を知るには、溯つて家産を造るの大目的を了解しなければならぬ。家産の目的は上に述べた五項十目、家産の最大限は金五万圓。之が私等の主張である。本論の主意である。どうか皆樣も此說に御贊成下さつて、現在五万圓の無い方は、下に述べる方法によつて之を蓄積し、更に目下五萬圓以上を持つてゐる方は、進んで公益の爲に其餘分を使用して貰ひたい。公益財團の事については本誌の公益財團に關する特別號で詳しく申し上げた。本號は單に家産造成の目的及び方法を御傳へするのが眼目である。請ふ敬愛する讀者諸君、奮つて家産財團の蓄積を決心せよ。鐵は赤き中に之を打たねばならぬ。機會は常に來るものではない。よしや機會は常に往來すと雖、貴君は常に同樣に之に共鳴し之に感動するものではない。如何によい事でも屢々聞く中には遂に其感激性を失ふ。願くは諸君此今日を捕へよ。明日ありと信ずる勿れ。

家産財團金五万圓年掛金額表

計畫年限＼利息別	四分八厘	五分	六分	七分	八分	九分	一割
十年計畫	三、八四三、九六六	三、七八五、三五八	三、五七八、七八〇	三、三八二、三三三	三、一七四、五〇〇	三、〇一九、二七五	二、八五二、〇六三
二十年計畫	一、四七九、八八一	一、四四〇、〇四〇	一、二八一、三一八	一、一三九、八七九	一、〇一一、五八〇	八九四、八二九	七九三、六一一
三十年計畫	七四六、四二〇	七〇六、五八七	五九六、四三六	四九〇、三三〇	四〇八、七六〇	三三六、六四三	二七六、三二九
四十年計畫	四一六、五六五	三九一、〇九三	三〇四、八二六	三三三、〇九一	一七八、七三〇	一三五、七八〇	一〇二、二七二
五十年計畫	二四四、一九八	二三五、七七六	一六二、四八五	一四四、四八一	八〇、八七八	五六、二八五	三八、八九三
六十年計畫	一四六、九九一	一三三、七一一	八八、四八九	五七、二一九	三七、三三五	二四、七五八	一四、九一六
七十年計畫	八九、八四一	八〇、三四四	四八、七三九	二八、八三九	一七、二四〇	一〇、四〇〇	五、七三六
八十年計畫	五五、四一一	四八、六九〇	二七、〇一〇	一四、五九七	七、九八四	四、三九五	二、二一一
九十年計畫	三四、三六四	二九、六五七	一四、九七四	七、四〇四	三、七〇二	一、八五三	八五二
百年計畫	二一、三八三	一八、一一九	八、〇三四	三、七六〇	一、七一八	七八五	三二九

學事

□町村長小學校長集會

二月二十一日郡内町村長及小學校長合同集會を同二十二日小學校長集會を郡會議事堂に開催せり當日郡長より指示したる事項其の他左の如し

▼町村長小學校長合同集會

指示事項

一、教員待遇向上に關する件

教員補充の途を容易ならしめ且優良人物に斯界に拓致することは教育振興の根本義にして之が目的を達成せんには教員の待遇を今一層向上せしむること肝要なり依て明年度に於ては本科教員俸給平均月額を五拾圓以

上とすること及び年末賞與金を月俸額の五割以上支給する樣盡力せられんことを望む

二、學校設備に關する件

學校の設備に關しては各位の盡力に依り近時著しく改善されつゝあるは寔に欣ぶ可き所なりと雖も尚ほ不備の点ありて兒童教養上遺憾少しとせず就中体操理科に關する設備は時勢の進運に鑑み速に完成せんことを要す仍て今回体操理科に關する設備標準を示し今後三ヶ年を以て之が完成を期せんとす宜しく町村の實情と學校規模の大小を參酌し適切なる計畫を樹て著々實行に努められんことを望む

三、高等科入學者增加に關する件

各位の努力に依り漸次高等科入學者の增加を見つゝあるは教育普及と洵に喜ぶ可きことなりと雖も時勢の進運と社會の實情とに鑑み今後更に之が增加に努むるの必要を認む明年度に於ては良好なる成果を收め以て時代の要求に副ふ可く相當配慮せられんことを望む

四、教科研究に關する件

小學校に於ける各教科は其間輕重なしと雖も國語算術の兩科は所謂基礎教科として十分之が徹底を期せざる可からず大正十一年度に於ては教員部會五月會には算術科全十月會には國語科に關する指導者を郡より派遣する等該科に對しては特に力を須ひんとす各位に於ても平素常に該科教授の改善に努め兒童實力の養成に資せられんことを望む

五、教科研究に關する件

体操音樂は兒童心身の發育修練に至大の關係を有し之が教授法の研究改善は最も緊要事に屬す依て大正十一年度に於ては各教員部會より研究委員を選拔し約二週間の期日を以て先進地に派遣研究せしめ歸郡の上は前記委員を指導者として該科の研究を盛にせんとす尚第二學期に於て各教員部會毎に研究大會を開催し郡より指導者を派遣するの外夏季休業中適當なる講師を聘して講習會をも開催せんとす研究委員に對する旅費の補給其他相當盡力せられんことを望む

六、教科研究に關する件

時勢の推移は理科的の知識の開發を要望し理科教育の振興を促すこと洵に切なるものあり依て明年度に於ては前記体操音樂に關する研究方法に準し各教員部會より研究委員を選拔し約十日間の期日を以て先進地を視察研究せしめ歸郡の上は前記委員を中心として該科の研究に勉め第二學期には研究大會を開催し郡より適當

なる指導者を派遣せんとす研究委員に對する旅費の補給其他相當盡力せられんことを望む

七、小學校教員學事視察に關する件

教員をして他地方の學事を視察せしむることは頗る緊要のことにして本郡の如き地方に於ては特に然りとす本年は恰も東京に平和博覽會の開くるあり教育上參考とすべきもの多し依て郡内各町村一名宛學校長又は首席訓導を以て視察團を組織し郡費を以て一名に付き二十五圓宛旅費を補給す各町村に於ては五十圓以上補給せられたし又滿鮮地方は本縣とは特別の關係を有し該地方の學事視察は實に得る所大なるものあり本郡教育會は大正十一年度郡内教員より七名を選拔して一名につき七十円宛旅費を補給し約二十日間該地方の視察をなさしむるの計畫あり視察員の派遣並に旅費補給等相當配慮せられんことを望む

八、實業補習學校教員講習會の件

本縣に於ては實業補習學校教員講習に關し從來の施設の外大正十一年度に於て會期約二週間を以て實業補習學校教員に對し農業科講習會を開催し小學校農業科擔當教員も志望により講習員に選定の豫定に付講習員の派遣、旅費補給等相當配慮せられたし

九、青年團指導に關する件

青年の薫陶指導に關しては常に各位の熱誠に依り漸次盛運に向ひつゝあるは洵に喜む可き所なり明年度本縣は各郡市より中堅青年數名宛を選拔し五六日間山口町に於て武道講習會を開催せらるゝ豫定なり又本郡は從來の施設の外青年團員見學旅行聯合体育會及一夜講習會を行ふ豫定に付相當盡力せられんことを望む

十、處女會指導に關する件

時勢の進運と社會の實情とに鑑み地方處女會の振興を企圖するの必要を認め大正十一年度本縣は會期約一週間を以て處女會指導者講習會を開催し本郡は處女會巡回講習會を開く豫定に付旅費補給其他相當配慮せられんことを望む

十一、一社會教育振興に關する件

社會教育施設に關しては各位の盡力に依り漸次發達しつゝありと雖も現下我國の實狀に鑑みれは今後一層社會教化に關する諸般の施設に努むるの必要あり明年度本郡は活動寫眞を利用し大に民衆教育に努力せんとす各町村は郡と相呼應し之が普及徹底に盡瘁せられんことを望む

十二、學事會開設に關する件

學校關係者相互の連絡を緊密にし教育の發達に貢獻するは目下の急務なるべし仍て本郡は明年度より學事會を開設して學校關係者の會合を催し以て教育振興の機運を促進せんとす各位は其の趣旨の存する所を了解し之が目的達成に盡力せられんことを望む

十三、學校衞生に關する件

明年度本縣は專任學校衞生主事を設置し學校衞生全般の事項に關し調査研究し併て實地の指導督勵に當り又學校醫集會の場合は郡市の要求に應じ派遣せらるゝ等學校衞生の向上に關し企畫せらるゝ所あり本郡に於ても明年度學校醫集會を開催し諸般の研究協議を行ひ以て學校衞生に貢献せんとす各位に於ても相當考慮せられんことを望む

口頭注意事項

一、學校長集會開催に關する件
二、女教員大會開催に關する件
三、實業補習學校專任教員設置に關する件
四、實業補習學校教員養成所入學に關する件
五、小學校教員協議會出席奬勵に關する件
六、學術講習會開催に關する件
七、青年團幹部講習會に關する件
八、地方改良講演會開催に關する件

▼小學校長集會

指示事項

一、部下指導に關する件

教員は常に自己の修養を怠らず潑剌たる意氣と確乎たる信念を持し實踐躬行社會の範となり薫陶感化の實を擧げ以て教育の大任を完ふす可きや論を俟たす然るに往々思想の健實を缺き師表たるの本分を忘れ兒童教育の措置を誤り或は素行を紊り常軌を逸するの行爲なしとせさるは兒童教育上弊害あるのみならず社會の信賴を傷くるの甚だしきものにして教育振興上最も遺憾とする所なり監督指導の重任に當る各位にして若し因循苟且斷乎として其の所信を貫くにあらざれば内校紀の頽廢を來し外教育の威信を失墜するに至るへし爾今部下指導上毫末の遺憾なからんことを望む

二、教育研究奬勵に關する件

本郡初等教育の現狀は尚形式的方面に於ても大に施設を要すると共に内容の改善充實は更に一層の緊事なりとす而して教育内容の改善充實は一に教育者の研究努力に俟つ所多く近時教育者間に修養研究の風漸く盛ならんとするは寔に喜ぶ可き所なり今後は更に適切なる指導奬勵を加へ其の意氣を作興し沈滯を戒め驕奢を潑

測たる活氣を呈せしめんことを要す各位は此点に留意し先つ自ら其範を示すと共に今一層部下を督勵して教育改善の實を擧けんことを望む

三、教育方法改善に關する件

由來我國の教育は往々煩瑣なる方法に依り知識の注入に偏するの傾向あるは洵に遺憾とする所なりと雖も一面新主義新方法を採用せんとして動もすれば其の形式に捉はれ精神を沒却し却て教育の進歩を妨くるもの少しとせず大に試む可きなり依て將來は時代思潮並に土地の情況を考察し以て進取健實なる教育方法を樹立し國民教育の本旨を貫徹すべきなり各位の指導宜ろしきを得しことを望む

四、教授細目改訂に關する件

教授細目の良否は教授の効果に影響する所大なるを以て之が改訂に關しては屢々指示せし所なるにも拘らず未だ完成を見ざる學校少からざるは頗ふる遺憾とする所なり今後は教材異動の際改訂す可きは勿論時代の推移に鑑み常に教授細目の改善に努め且つ之を有効に使用せんことを望む

注意事項

一、師範學校入學並に教員試驗受驗勸誘に關する件

二、小學校兒童學力並に体力調査廢止に關する件

三、聯合体育會に關する件

口頭注意事項

一、山口高等女學校高等科設置に關する件

二、小學校兒童及實業補習學校生徒奬勵に關する件

三、第十回學校衞生体育運動講習會に關する件

四、農業教員大會出席に關する件

五、自由研究資金贈與の件

産業

□鎌入不足の原因と當業者の覺悟

本年の稻作は植付の當初天候不良なりし爲め當年の稻作は不良なるの聲起れり、然る所漸次に天候恢復せしよりそんなに悲觀するの要なしと愁眉を開きたり、とりどりの噂の裡に愈々鎌入の結果は流石の悲感に沈みたり大正九年の實收高六千三百万石に對し本年第二回の豫想報告は五千六百五拾万石に減じたり昨年の豐作に比し本年は不作たるを免かれざるなり、本年の稻作毛上昨年に異らざるも藁多きに係はらず米の收量少く粃多し、斯く

本年稻作は何故不良なりしか即鎌入不足の原因を探究し以て之に對する當業者の覺悟を述べて郡民諸氏に訴ふ稻作は年によりて著るしく豐凶あり、同一の栽培方法を行ひ同樣の努力をなすも天候順潮の年は豐作にして天候不順の年は忽ち不作に悲まざるべからざるなり

例へば明治參拾七年の收穫は五千三百四拾參万石にして其の翌三十八年に於ては參千八百四拾參萬石に減じ其の差實に千參百萬石以上に達し、又四拾貳年は五千貳百四拾四萬石なりしも翌四拾參年は約六百萬石を減少して四千六百六拾參萬石を示せり、之に反し大正貳年に於ては五千貳拾五萬石なりしも翌參年には五千七百一萬石となり、約七百萬石の增加となり又大正七年には五千四百七拾万石なりしも翌八年は六千參拾八萬石となり約六百萬石を增加せる等年によりて著るしく豐作不作あり

豐作の年には米價暴落し不作の年には價格暴騰し其の量と其價とは相以て生産者を苦しましめ或は消費者を泣かせ食糧問題は年々に困難を來し右問題の解決は至難中の至難事なり國民の生活の安定は期し難し、是れ稻作に氣候の影響する甚大にして豐作と不作は天候によりて支配さるゝが爲めなり

其の稻作の豐凶に及ぼすの氣象要素は種々ありて溫度高低日照量の多少濕度や風の有無强弱雨量の多少降雨日數の關係等甚だ複雜なり然れ共稻作の豐凶に最も大なる關係を有するは溫度の高低と日照量の多少なり

然らば如何に溫度の高低と日照量の多少が稻作の豐凶に影響を及ぼすべきかを本縣農事試驗場に於て每年調査せる稻作豐凶考照試驗の成績より不作の大正七年と豐作たりし大正九年と比較し更に此豐作不作兩年と本年とを研究すべし

稻作と溫度及日照との關係

年度 / 月別	溫度 大正七年	溫度 大正九年	溫度 大正拾年	日照量 大正七年	日照量 大正九年	日照量 大正拾年
四月	三四、四	四八、七	四九、一	一九八、四	一五九、四	二三一、二
五月	五九四、五	六一〇、七	六一五、三	二三八、三	一八五、一	二三五、四
六月	六六二、七	七〇二、五	六三七、八	一五四、七	一三五、五	一四二、九
七月	八〇九、八	六八〇、二	八二四、一	二〇七、二	一七三、三	一六一、七
八月	八五〇、六	八七六、六	九一六、二	一七九、四	二〇五、一	二〇三、七
九月	六六一、〇	七五三、二	六〇六、八	一六一、六	一一六、三	一五八、七
十月	五二一、二	六〇一、〇	五六一、九	二七八、一	一六二、〇	一九三、八
總計	四、四四三、〇	四、九一一、七	四、五六一、二	一、一七八、六	一、一八一、七	一、三一七、二

早稲高津	大暑	莖數	拾六本	拾八本	拾八本		
		草丈	二尺六〇〇	二尺三九〇	二尺六七〇		
	二百十日	莖數	拾貳本	拾七本	拾參本		
		草丈	三尺二九〇	三尺〇四〇	二尺六七〇		
	反當收量		一百八四七	二百七五五	二、二一八		
中稲都	大暑	莖數	拾七本	貳拾本	貳拾本		
		草丈	二、四六〇	二、三九〇	二、五八〇		
	二百十日	莖數	拾參本	拾九本	拾四本		
		草丈	三尺八六〇	三尺一三〇	三尺三四〇		
	反當收量		二百二三三	二百九九九	二、三八二		
晩稲神力	大暑	莖數	拾九本	貳拾四本	貳拾貳本		
		草丈	二尺六六〇	二尺〇九〇	二尺三三〇		
	二百十日	莖數	拾五本	貳拾四本	拾五本		
		草丈	三尺四六〇	三尺四六〇	二尺九八〇		
	反當收量		二百〇七八	二百七八一	二百四七〇		

右の表は最も雄辯に稲作と氣候との關係を物語れるものにして同一の土地に同一の栽培法を行ふも年によりて斯く異るものなり即

大正七年(反當收量)　一石八斗四升七合
大正九年(反當收量)　二石七斗六升五合

早稲　高津
中稲　都　二石二斗三升二合
二石八斗九升九合

晩稲　神力　二石〇斗七升八合　二石七斗八升一合

何によりて斯く收量を異にするや、言葉を換ゆれば何に氣候が關係して斯く迄に收量に差異を來すや其の株張の多少を調ぶるに大暑(七月二十三日)の株張狀況は

	大正七年	大正九年	大正十年
早稲高津	拾六本	拾八本	拾八本
中稲　都	拾七本	貳拾本	貳拾本
晩稲神力	拾九本	貳拾四本	貳拾貳本

豐作の九年と不作の七年と比較するに早中晩稲共九年は株張多けれ共七年は株張少し何れも二三本の差異を生じたり而して大正九年と大正拾年を比較するに其の株張りに於て早稲中稲は其の莖數同一にして其の晩稲に於て僅かに二本少きのみなり株張に於て著るしき其の差異なきに係はらず收量昨年の豐作たりしに本年不作たるなり前年の豐凶考照試驗によるも

	大正四年	大正五年	大正六年
神力(大暑の株張數)	參拾五本	貳拾本	貳拾五本
神力(反當收量)	二石八三七	二石九三二	二石四八一

右表に示されたる如く大正四年は既に參拾五本の株張なりしも大正五年の貳拾本に收量及ばざるなり大正六年の

二十五本の株張は二十本の前年よりは其の收量著るしく少し即ち株張の多少は收量の多寡に餘り大なる關係を有せざるなり、稍ともすれば從來の稲作は餘りに株張りに重きを置き株を大きくする事にのぼせたり、其の結果や毛狀麗しく藁多きも米の少くして多からざる吾人の數度ならざる失敗を重ねたる所なり

其の收量に關係を有するは其の土用に於ける株張數によりて支配されずして其の株張せるものより穗を出す有効分蘖の多少によりて決するものなり

稲の株張り即分蘖に有効分蘖と無効分蘖とあり、有効分蘖とは株張りせるものより穗を出すものを曰ひ無効分蘖とは其の株張し乍ら其の物より穗を出さざるものなり有効分蘖の多き年は豐作にしてたとへ株張りは多く共無効分蘖多くして有効分蘖少き年は不作たるなり

本年を昨年に比較するに其の土用に於ける株張り數は其の差少きも二百十日に於ける莖數即ち穗を出したる穗の數に於て隔段の差異を生じ從て不作を來したるなり

大暑の莖數と二百十日の莖數を考ふるに

早稲(昨年　拾八本に對し拾七本
　　本年　拾八本に對し拾參本)
中稲(昨年　貳拾本に對し拾九本
　　本年　貳拾四本に對し拾四本
　　本年　貳拾貳本に對し拾五本)

晩稲(昨年　貳拾四本に對し貳拾四本
　　本年　貳拾貳本に對し貳拾四本)

即ち昨年に劣らざるの株張りを見たるも其中より穗を出す有効分蘖は著るしく少し、是れ本年の稲刈に於て刈物の藁は多けれ共米少き之を鎌入不足と言ふ此の鎌入不足に泣きつゝある次第なり

昨年は株張せるもの大部分穗を出せるに係はらず本年は何が故に穗を出すの有効分蘖少かりしか

天候の關係を窺ふに

稲作期間たる四月より十月迄の七ヶ月間の温度の變遷を見るに昨年は四千九百拾壹度に對し本年は四千五百六拾壹度にして三百五十度低し、四月五月の温度は少々高かりしも日照量に於て昨年の四月の貳百貳拾五時間に對し百八拾五時間にして此の四五月の天氣は曇雨天多くして晴天少く日照り著るしく不足せり、而して殊に大切なる六七月の温度を見るに、六月の七百貳度に對し六百參拾七度七月の八百八拾度に對し八百貳拾四度にして斯く温度の低下は稲の株張りをして著るしく減退せしめ本年の稲作は不良なりの聲を高めたる次第なり、昨年は七月の温度最も高くして八月は稍下りたるに本年は七月の温度

七百貳拾四度なりしに八月は九百十六度と曰ふ如き異常の昇騰を見たり其の結果は抑壓されたり一株張は劇かに增加し以て昨年に負けざるの株張うとなりたるを以て本年の稻作不良ならずの聲高まり吾人大ひに愁眉を開きたるなり

其後の溫度の低下急にして早冷を來し鎌入に及ぶや米少きに泣けり、八月の溫度高きは却て無効分蘗を增加したるなり、分蘗中有効分蘗と無効分蘗とあり分蘗の時期と有効分蘗無効分蘗の關係を調査せる本縣農事試驗場の調査は

		有効分蘗期	分蘗最盛期
早稻	高津	七月二十一日	八月二日
	穀良都二號	七月二十四日	八月二日
中稻	中生神力	七月十八日	八月五日
	都一號	七月十八日	八月二日
晩稻	雄町三號	七月十八日	八月二日
	神力一號	七月十七日	八月五日

稻の分蘗は八月中旬以後に於ても繼續し其の分蘗最盛期は八月上旬なり然らに其れの有効分蘗の限定期は七月中旬遲くも下旬迄なり

故に六七月迄に分蘗せるものは有効分蘗なれ共八月以後に分蘗せるものは無効分蘗たるなり、豐作たる昨年は六月七月の溫度高く八月稻下降し、本年は其の有効分蘗期にして最も肝心なる六月七月は溫度低く却て八月に入りて溫度上昇し無効分蘗を增加したために藁の多きに反し穗の數少く其の穗も小く粃を多からしめたる所以なり然らば如何にせば絶大の權威ある天候の稻作に影響するを減縮して豐年に有効分蘗を益々多からしむると共に不順の天候に遭遇するも無効分蘗を少からしめて減收の度を輕減し得べきか

此方法は吾人の主唱する實に改良稻作法なり、改良稻作法とは天候順潮の年に於て益々多收穫を實現すると共に不順の天候に襲はるも其の減收を少からしむる稻作法にして最も合理的の最も經濟的の健全なる栽培方法なり本郡が萩町に於て調査せる所によるに五月より十月迄に於て昨年溫度四千三百九十三度に對し本年は四千二百四十一度なり、毎月の平均に於て百四十三度に對し本年は百參拾八度なり、稻作期間中晴天の百九日に對し本年は八拾參日曇天四拾貳日に對し六拾九日雨天の參拾參日に對し本年は參拾貳日なり、降雨量に於て昨年八百參拾壹粍に對し八百九拾五粍なり、昨年と比較し本年の天候は不良にして斯く無効分蘗を增加し有効分蘗著しく少く鎌入不足に悲む所以なり

不良天候に遭遇し不作に苦しめる吾人は斯く稻作は天候に支配さること甚大なれ共從來の如く天候の然らしむる所として袖手傍觀し徒らに不平愚痴を洩らすなく其の原因を探究し以て人爲を盡して及ぶ限り補足せざるべからず、抑も稻作は寒さ去り春暖を催ふすに至り苗代を播下し寒さ即秋冷の來らざる前に刈取を了する、即稻は寒さと寒さとの間に於ける暖き期間に於て栽培を了するものなり、寒にては其收量少く暖地にては其の收量多き其の稻作期間の長短日數の多少にあり、海岸部地方は百七八拾日東部地方は百五六拾日なり

其れ〳〵の期間に於て稻は株張りをなし出穗開花し更に結實成熟の三大事業を行はざるべからず

凡ての動植物は一代に於て、生長作用、蕃殖作用、結實作用を行ふものなり、作物栽培に當りて其の目的により栽培違へざるべからず、俺は白菜に肥料をやり過して失策たと申す者はない、あんな肥へた所へ菜を植へてしまつたと曰ふ事はない彼の菜の種子は甘い彼の種子は味がよいと言ふものはない、菜は其の成長作用を繼續させる旺盛ならしむる事が肝心で其の葉が目的である

然るに南瓜を作ると内の南瓜は蔓許り出來て一つも南瓜は食へん、肥しを過して仕舞つたあんな肥へた所へ植へてしまつたと不平を曰ふ、吾々の屢々遭遇する事である

南瓜が四月から八月迄其の一代中蔓許り盛んに伸びてゐて幾ら色黑々と出來たところが其は役に立たない、故に南瓜には摘心が大事である、摘心とは生長作用を止めて結實作用に向はしむる方法である

從來の如く株張を多くする稻にはコヤシさへすれば出來るとあせるとある程藁は多い、藁作り式の稻作法になつて肝心の米は取れない、藁の値の良い時分には其でよいけれ共米の値が高い時分には其では引合はない

須佐村の某篤農家が大きな株張を作つたら八拾本になつた穗は、一本も出なかつたとか、南瓜は成らずに蔓許り作つた譯である其では役に立たない

株張りさせる許りが能ではない、其の株張したものが穗を出して呉れなければ困る、十分に稔て呉て穗が大きくなくては拙らない、矢鱈に株張り許りさしてゐると肝心の穗を出す間がなくなる、稔りをよくする餘裕をなくすると丶のつまりは藁作りになつて仕舞ふ

南瓜に摘心が肝心で缺ぐべからざる大事な仕事の如く稻作に於ては早く分蘗を止めなければならぬ、八月上旬頃に盛に株張さしてはならぬ、七月中旬以後の分蘗を抑制せしめねばならぬ、如何にして此の無益ごころか有害な

る此の無効分蘗を如何にして無からしむべきか是が、現代稻作の主眼としてゐる所である

改良稻作法とは從來の如くハヂナ稻を弱く作る毛狀を作る藁作本位の稻作法でなくヲミナ稻を健全に丈夫に作らうとする稻作法である、丈夫に作つたものからは決して穗を出さない樣なものはない、其穗は太く稔りがよくて粃は少いのである改良稻作法は別に事新しい珍らしい稻の作り方ではない從來の稻作法は稻を束縛して自然の發育を造りたる不自然なる亂暴なる栽培法であつた、其れを普通の稻作法に引戻し稻をして完全なる發育を營ましめんとする方法である

言葉を換へて見たら改良稻作法とは稻をして早く株張りせしめ而して早く分蘗を止めて稔りよき粃の少き大きな穗を出さしむるの方法である

本年の如き不作に悲しむ多數人々の中に獨り米を昨年に餘り劣らざる豐收を然も米の惡きを罵るも揃ひに揃へる良質の米を斯くて心の奥底の堪へ切れぬ笑を包んでゐる人は改良稻作法を信して斷行した人々である

今や改良稻作法は三畝や五畝の試驗時代でなく一反二反の模範田の方法ではない

最も合理的にして農家の行て經濟的なる從來の多收作の如く功を僥倖に求むるなく斯く危險のものでなく一時的突飛的な危險の方法でなく恒久的の安全なる尤も健全なる栽培方法なり順潮な年に殊に不良天候の年に於て著るし郡内を通じて其の自己耕作地全部に敢行する丈に確信も非常に立派なる成績を顯したるもの實に五十餘人、部落擧て實行したる福川村の寺田あり、稻作改善に絶大の努力を傾注し其の村當局の熱心は篤農家を奮起せしめ一般農家を覺醒せしめ稻作氣分全村に漲り稻作改善の第一歩に成功したるの地福村あり

其の改良稻作法の主眼とする所は一、苗代改善二、植方の改良三、施肥量の適良等あり、其の大要を述ぶべし

▼苗代の改善

從來の稻作は苗代にて苗を作り本田に移植してから其の本田に於て株張りと言ふ仕事と出穗開花と結實成熟と此の三つの仕事をさせようとする式である、第一項の株張はどうなりこうなり大きくなるけれ共既に稔りを十分にするの餘裕がない從て、今迄のものが藁が多いけれ共米が少い所以である、殊に本郡大部分の地方は其の稻作期間百五六十日である、其の期間に於て苗を作る苗代期間が四十日引かれると殘りは百十日、本田に移植しても苗が弱々しいので青み出す出來立つ迄に十日内外はかゝる

結局のところ百日内外で株張りも稔りもやらなけりやならない、其の短時日に三つの仕事は出來ないのは當り前で天候不順の年即六七月温度低く秋冷早い時減收の大なるのは尚更である

此の無理な栽培法より其の稻作期間を一日を無駄にしない樣に之を有用にしたい、從來の如く四十日内外の日數を苗を作り上ぐる殊に半途な苗にせず相當株張た立派な苗を作り出來得れば半分の株張りは苗代でさせ其殘り分蘗を本田に於て行はしめ本田に於ては主として稔りをよくさせ大なる粃なき穗を作るに主力を集注したいのである

元來稻は播下されて三十日内外より株張りを初むるが自然なり、然れ共從來の苗代は厚蒔に失して日光の不十分と養分の不足は分蘗を抑壓されたるなり、薄蒔苗は厚蒔苗に比し分蘗多きと雖、薄蒔苗は早く分蘗を初めたるを以て早く分蘗を終り厚蒔苗は分蘗抑壓されたるを以て本田に移植され遲くなりて株張りを初むるを以て遲く迄分蘗を續くるものなり、從て薄蒔苗は有効分蘗多くして無効分蘗の少きに係はらず厚蒔苗は之に反して無効分蘗多くして有効分蘗少し、薄蒔苗は早く分蘗を初め早く分蘗を終るを以て出穗早く其の穗大にして粃少く收量多く成熟數日間早し、鎌入不足に泣ける吾人は苗代を厚蒔して稻自然の發育を妨げたるに因を有す、故に苗代は播種面積を擴大し一町歩栽培者の苗代面積を七畝歩に增し一反歩の苗代十五歩を用意し一つの籾に對し五分四角の場所を與へざるべからず、苗代の改善殊に薄蒔は稻作の根本なり、而して五十日内外苗代に栽培して一人前になつたる熟苗となりて始めて栽植すべし

▼植方の改良

吾人の望む米の主要成分にして其の大部分は炭水化物なり、其の炭水化物とは讀んで字の如く炭素と水との化合したるものにして其の炭水化物の造成には植物の同化作用に待たざるべからず、其の植物の最も大切なる同化作用を疎んじ無視したるの嫌あり

炭水化物は炭素と水との化合したるものにして空中の炭素と土中の水と化合したるものなり、然れば別々に施肥するの要なし、然し乍ら施肥せざるときは收量少し此の空中の炭素と土中の水と一緒になるに就ては仲介者を要す肥切れたるときは葉は褪色して黄色を呈し肥料を施すときは眞青となる、此の青いのを綠稱して葉素と曰ふ、此葉綠素が一方の仲介者たるなり、片一方の仲介者は日照なり、科學的に申せば葉綠素の所で日光の力で空中の

炭酸瓦斯を分解して根より吸收した水と化合して生ずるものなり、故に此炭水化物を造成するに大切なる同化作用を盛ならしむるには空中施肥として炭酸瓦新を放散し一面電光を放ちて日光の助けをなさんとしつゝある狀態なり

從來の稻作方法は株張りて大ならしめ株間の水の見へざるを以て得意然たり、斯くて米の造成上最も肝心なる同化作用を營み及盛ならしむるに大切なる日光の透射を遮斷せり、故に其の毛狀の美しきに引かへ收量の少き米の多からざる日光遮斷せるにあり

現在の稻作殊に米の少きは日光を遮りて同化作用を妨害せるにありと極言し得べし

もう二三番草の時に水が見へないと喜べ共之れ誤りも甚しきものなり其の稻田の最も榮へたる土用過に於て稻株張の一番盛んなる時に互に株間は接觸せず尙以てちよろ〳〵と水を認め得べき樣而して日光の透射を妨害するなく一本一本の稻禾に日光を浴せしめ同化作用を盛ならしむる事最も肝心なり

從來亂雜植は此の大切なる日光の透射を良からしむべく强制執行の許に正條植に改められたる所以なり

然るに正條植にては株間狹く細植とせば穗の數は多からしめ得べきも互に露棚を張り日光の透射を遮るを以て穗小く粃著るしく增加し減收を免かれず

之に反して疎植卽株間を廣くせば日光の透射は可良なるも不用の土地を生じ遲く迄株張をなし無効分蘖增加して又收量少し疎植するる細植するも稻作の增收は困難なり

茲に於て生まれ出でたるものは長方形密植の行法なり、一方は細く密植して穗の數を增し早く分蘖を止めて無効分蘖をなからしむる實に一擧兩得の方法なり、穗揃惡しき早稻と雖二度出を豫防し得べき改良法なり、其方法廣き方は一尺內外とし狹き方法は四五寸を標準とす、出來得れば東西の株間を廣くし南北の株間を狹くし以て南北の通りを廣くせば日光の透通上誠に適良なり而して一株二三本植とす

長方形小株密植の方法は田の中に日入り株張り少く丈短く穗を出す迄の外觀極めてじみにしてはでならず人氣に投じ難きの嫌あれ共其の株張せるものは悉く出穗し其の穗の大なること粃の少くして稔りよきこと又籾摺步合の大なること驚くべし、從來の正條植より更に一段進步せる方法にして日光の透射よろしきと共に株數多く栽植し得べき恰好の方法なり、天候順潮の年に多收をなし得べきは長方形植にして不順天候に遭遇して其の減收をして

少からしむるは此の長方形小株密植方法なり

▼施肥量の適良

稻はこやしによりて增收し得べし、米はこへが變化するものなるかの如く誤信し肥料を多施し其の結果稻作失敗の原因の大部分は肥料にありと曰はるゝの狀態なり

元來肥料とは土地を肥やすものにして土地の生產力を維持し又は之を增進するが爲めに土地に施すものなり

抑も稻作の根本條件は一、天候一、土地一、種子此天候と土地と種子は實に三大要素にして此の一を缺ぐも稻作は絕對に不可能事なり然るに天候天候と眞念し惡いのは罪を天候に塗り徒らに株張を大きく又多からしめん事のみに昇して氣候の利用增進を打忘れて溫度を高からしむる事日照を一々の稻禾に受けしむる事を無視したり土地は惡くても肥料を施しさへすればとこやしこやしと頭になつて土地の改良土地生產力の增加を期する事を忘れたり稻の非常に肥へ負けし易きに反し麥は肥へ負しがたし故に麥作の際十分に肥料を施し直接麥を多收すると共に其の土地生產力を增進して肥へたる土地に肥料を減じて稻作を多收する農家として最も合理的なる經濟的の恒久的の安全なる健全栽培法なり、之れ余の稻作るには麥作れと絕叫する所以なり

其粘土質の土地は深耕により砂地やばんの張たる土地は客土により凡ゆる手段を講じて耕土を五六寸以上たらしめ一面土性を改良して出來立早きと共に稔り良き秋入れせざるの土地となさゞるべからず、肥料に昇せ過ぎず其の根本の土地を思ひ慮し土地生產力の增進に努めざるべからず土地改良は決して廻り遠き方法に非ずして其の根本にして直接に又恒久的の實に大問題なり

又種子の研究　近時稻注意する所となりしも尙以て不十分なり、近時稻熱病は多收作と共に高まり多收作田に附きものの嫌あり、之れ多收穫品種の虛名に驅られて神力種を各種各樣の土地に强要したる結果なり、其の源に溯り其土地に適應したる品種卽粘土質に砂地に又平坦部に山間部にと陸稻型を水稻型をと更に進んでは何品種をと土地に適せる品種を栽植せざるべからず

不作の天候に襲はれ鎌入不足に泣かしめらる尙以て人爲を施す不十分にして改良行はず天然力の利用增進に努ひる尙足らざる其の栽培法に缺陷あると自覺し改良稻作法を實行し氣候の利用增進と土地地力の利用增進に努め品種の特性を窮め土地に適應せしめ以て天候順潮の年に益多收を實現すると共に天候不良の年亦其減收を少からしめ以て最も合理的にして最も經濟基礎の確立されん事を

望む

□德佐村農事研究會の設立

本郡德佐村に於ては篤農家の自覺に基き青年農事研究會なるものを設立して左記會則を協定し大に農事の研究と之か改良發達を期するの計畫を樹てたり

青年農事研究會會則

第一條　本會は各自の農事改良を圖るを以て目的とす

第二條　本會事務所を德佐村役場内に置く

第三條　本會に加入申込ありたる場合は總會の承認を經て決す

第四條　二回以上缺席したるものは除名す

第五條　本會は左の事業を行ふ

講習講話會開催。農事視察。圖書雜誌の購讀

第六條　經費は會員の負擔とす

第七條　毎年三月下旬及九月上旬總會を開催す

第八條　本會に理事三名を置く理事は會員の互選とし任期は一ヶ年とす

第九條　理事は會務一切を處理す

□稻作改良宣傳歌

本郡に於ては近時稻作の良改に極力奬勵を加へ殊に年頭に當りては告諭を發して大に苗代の薄蒔を奬勵せり各町村に於ても亦之に共鳴し各種方法を考究して之が實行に努むる所あり就中郡内に於ける宣傳歌は其の要を盡せるものあり左に列記して奬勵の資となす

▼琵琶歌　（福賀村農會）

三 開け行く世に後れじと　三 拙なき業も取る撥も
三 綾に心をつくし琵琶　四 調に連れて農業の
四 職にいそしむ我等こそ　五 實にも樂しき極みなり　番
七 豐葦原の名に耻ちぬ　六 豐けき稻を作るには
春「こぶし咲く頃苗代の　「薄蒔なすぞ秘訣にて
「一坪當二三合　三番　三 牛の歩みも深耕の
三 犂にて耕土五六寸　五 施肥配合を案配し
夏「通ふ空氣と日光を　「受　長方密植に
「灌漑殊に意を注き　時鳥　七 除草害虫驅除豫防
六 勵み勉めて黄金の　五 波寄す秋の出來高は

三 一反五石また疎か十五號　四 嗚呼農業の尊さは
春六廻し　「我太日本帝國の
「七千五百有余萬　三 勵む其の身は健に
「御國を活す生業ぞ　五 實にも樂しき業なれや
五 米壽を祝す福德の
三 實にも尊き極みあり

▼淨瑠璃　苗代薄蒔すゝめの段　（地福村農會）

誠に國の礎ろや。ぞは言ふものゝ蒔きたやな。國のれん
ため兼てより。覺悟は極めて居ながらも。せめて桝らし
いものに入れ、量つてでも蒔くことか。素性よろしい種
籾をば鹽水選を行ひて。薄くまき込むそのさまをろばで
見て居る嬉しさは。どの樣にあろふどうあらう　思ひ廻
せは古から厚蒔するのが習慣で。七升八升まだその上に
一升ませどもまた足らぬ。二升ませどもまだたらぬ。苗
床廣めぬ結果ぞや。薄蒔改良實行せば。段三升てすむて
あらう同じ稻作するものが惡苗百本植えたとて千本万本
植えたとて何の收穫があろうろいな三千世界に米作る人
の心は皆一つ。除草間引を行ひて。良苗作れと言はれて
も。先祖傳ゑの農業とて。只舊慣を守るよな。どう慾非
道な百姓が今の世界にあるものか。何時も豐作する人は
果報か名譽か羨ましし坪に三合と言ふことが。目下奬勵の
標準ぞと郡の告諭に基いて之が改良に努めなは　矢　一反當
り收量は四石は愚か五石ても作り得らるゝ道理

薄蒔宣傳　大十不作之段　（福川村）

是れ聞き給へ田作さん、　籾蒔く門出にくれ〳〵も
お諫め申たその時に、　思ひ止まつて薄蒔に
種蒔き致して給ふたら、　こうした難儀わわるまいに
知らぬ事でもあるまいし、　現在利益の有る業を
實行せぬとわ何事ぞ、　余り厚蒔なしやんす故
かよわい苗で株はらず、　尚ほ其の上に天候は
土用入りまで降り續き、　土用半の其頃から
漸く天氣恢復し、　稻は分蘖なし始め
株は漸々はりたれど、　凡時期の有る者で
無効分蘖多くして、　實のりの御役に立ち難し
鎌入り不足の境遇になり果てたる悲しやなァせめてれ米
の値なりとも、可なりに維持と行かれるかと
思ひ案じてをる内に、　次第〳〵に下落して
百性の家が立つ者か、　酉の不作に鑑みて
戌の年頭早々に　郡長樣の御諭しに

苗代全部實行し　苗を丈夫に作り立て

今年こそは薄蒔に、坪三合を標準に、不順天候にも打ち勝ちて、實に有難き言葉ぞや是れに感じて田吾作も今年こそは薄蒔の、苗代仕立て、増收の基を作ると共々に、其の決心になつたとは操の鏡に曇りなき、心に誠を顯はせり

太功記十段目　苗代薄蒔の段

妻は涙にむせ返り詞コレ見給へ御亭主殿。苗代時に吳れ〳〵もおいさめ申した其時に。ほんに薄蒔なされたら。こをした歎きはあるまいに農事改良と云ひ乍ら。現在あなたが手にかけて厚蒔するとはエマア何事ぞ。農會よりのお勸めに只改良に心よせ。坪に三合と曰ふてたも拜むわいのと手を合せ。いさめつ泣きつ女房が夫を思ふうらみなき。操の鏡くもりなき女の諫め誠なり

勸農勵現記

不作愁歎の段　（嘉年村農會）

鹽水選や。苗代に別れてから。日輪機の御世話になり。稗と一所に育てられ。三割方は增收と云ふて暮して居る内に。情なや今年は。思ひもよらぬ凶作で。賴母子やめても其上に掛金に迫められ何のその。一旦蒔いた厚苗代たとへ火の中水の底實入らす迄も株張れと。思ふ許りかコレ申し出來立後を直さんと。此壺底の下肥樣を。明の七つの鐘を聞き。そつと蓋を只一人。山路厭はず畝に三荷。切なる手入も顯のないとは如何なる報ぞや。勸農樣も聞へぬと今の今迄恨んで居た。薄蒔密植知り乍ら。在來法をとる樣な　今の奬めの方法を。わたしや何故せなんだかと。殘念がりし老農の涙の色ぞ哀れなり

▼鳴綠江節　（阿武郡）

一、阿武郡の稻作改良の方法は
　一に氣候の利用增進ヨイショ
　二には土地のヤツコラ深耕で
　三がマタ優良品種の普及ぞやチヨイチイヨイ

二、苗代の薄蒔改良が大切で
　施肥は適良に灌漑水もヨイショ
　移植は長方形のヤツコラ密植に
　稻熱病のマタ豫防と害蟲驅除

三、八大の郡の方針を守りなば
　出來高凡そ五割增ヨイショ
　十四万石はヤツコラ二十萬石に
　農家のマタ富むのが國のため

一、苗代へ蒔くなら坪に三合づゝ
　生へた早苗はアリヤよけれ共ヨイショ
　虫や肥でヤツコラ倒れたら
　今年もまた豐作にはなりかねるチヨイチヨイ

（椿村農會）

二、畦道や百姓衆の足の跡
　小川を渡れば模範田ヨイショ
　人目引くのはヤツコラ出來ばへの
　朝日にマタ輝く黃金色チヨイチヨイ

三、あの稻を村の土產に一株ほしや
　あげたい心はアリヤあるけれど
　未だ青田でヤツコラ上げられぬ
　うれたマタあげます選り種をチヨイチヨイ

四、朝晩になんぼ稼いでも貧乏は逃ぬ
　それはれまへの苗代がヨイショ
　何時も厚蒔ヤツコラ深水で
　出來たマタ早苗が緣ぢやものチヨイチヨイ

五、今年の取り入れ仕事も程よくすんで
　あれみやしやんせ此の倉を
　一ぱい積んでヤツコラ惠美須顏

これもマタ薄蒔したお影チヨイチヨイ

▼安來節

一、薄く蒔いたら　穗株が咲いて
　今年万作當り年

二、桝と尺杖　持たない人は
　蒔いた籾種　度が知れぬ

▼ヤナギ節　（福賀村農會）

一、年始がへりに貰た告諭稻作ナントショ
　薄蒔せよとて書いたある　其の筈だ
　言葉「ム稻作增收の根本義はヤツパリ苗代の薄播だ」
　てなことおつしやいましたかね

二、去年咏た鎌入不足今年からなんとしよ
　念の上にも念を入れ研究して
　言葉女「ネーなた鎌入不足の原因は何ですか」
　亭主「ムー苗代植方の改善と施肥の案配さ」
　てなことおつしやいましたかね

三、去年扱ぐ時夫婦で泣いて弱たナントショ
　今年扱く時頗笑むんだほゝえむんだ
　言葉女「チー貴郎薄蒔の効果は顯著ですね」
　亭主「ソーダ共其れに長方の密植と來てるからね」

てなことおつしやいましたかね

▼地藏和讃　（阿武郡）

自作小作日稼の、中產以下の人々が、浮世の浪にもまれつゝ、汗水垂らして余念なく
小石を拾ひ塔を積む、一重くんでは家のため、二重くんでは村のため、三重くんでは國のため
稻作改良の一念に、毛上見事に出來ぬれば、横暴無道の天當は、見るも恐ろし風車
日照り不足し雨續き、五石の田をも一つきに、命の綱をさらへゆく、あわれかなしき粃穗が
おそれれのゝく許りにて、防ぐすべなきあわれさよ、こゝに改良稻作の、無量無邊のみめぐみに
我をわすれて打ちつどひ、南無や改良稻作と、御袖にすがつて手を合す、天當今はかなわじと
三十六計逃げ出す、あとは一面改良の、天地と化して野も山も、黃金の波はこゝかしこ
この世からなる極樂は、南無や改良稻作と、深くたのむもまことなれ、榮ゆる御代こそめでたけれ

□小山氏果樹栽培法

先般岡山市商品陳列館の大原奬農會主催に係はる農事講習會に於ては農學博士大杉繁氏の土壤肥料作物に就て農學博士近藤萬太郎氏其他有元農學士の農蚊八木氏の昆蟲等あり頗る有益なりしが小山益太氏は岡山縣果樹栽培大家にして多年の實驗は頗る傾聽に値するを以て左に其の概況を述ぶ

一、果樹施肥の方法

肥料とは作物の要する養分なるべきも余は栽培に於て其の果樹の不足する養分さへ補充すれば足れりと信ずるを以て果樹の要する養分の不足なるものを肥料と考ふる者なり、故に不足せる養分ありや否や若しや不足せるものあらば夫は何成分たるやに知る常に注意を拂ひ荷不足を補ふことに努めつゝあり余は原肥は鋏の切れ味に依りて配合し追肥は葉艶と手觸りによりて不足なりと認むるときに其の成分のものを施すを例とせり、何となれば施肥したればとて必ず之を吸收するものとは限らざるものの如し施さざる時分も土壤中に存するならば吸收することもあるべく又施肥するとも吸收し能はざる場合もあるべし土壤の冷温、乾濕等の關係にもよるべく其の實際は甚だ複雜なるものに似たり而して余の知らんとするものは其樹の不足養分なるを以て其の樹により其の現況を認むるを優れりと信ずる所以なり、冬季剪定に際し其枝稍々

熟度剛葉をば鋏の切れ味によつて覺認するは眞に僞りなきものと信ずれ共是れ素より切れ味なるを以て筆舌にて能く之を說明すること能はず、剪定に當り枝稍の剛柔を掌に感じ以て其の熟度如何を覺認し得るは左迄の難事に非ず何人にても熱誠之に努むれば必ず知り得べきなり是れ理論に非ず事實なればなり、誠に其の手に感ずる所を音によつて述ぶれば窒素過多にて燐酸不足の場合又は水分過多のために發育したるものは手應やさしくバザリバザリと切れ得れど之に反し燐酸過剩にして窒素の乏しき時又は強き日射を受け水分の欠乏せる場合には手應へ強くリリツリリッと應へカチット音して切れるなり、加里の能く作用せるものは切れ味よりも先づ其枝の形態に於て一見之を認め得べし、枝稍は比較的短く太く特に肥効を奏せるものは其枝丸くして滑かなるもの少く恰も腕に力を入れたる時の如く所々瘤樣のものを生じ眞に力あるものに似たり、此の如き觀察の後肥料の種類を考へ配合して原肥となすなり、然れ共之を配合するに當りては頗る注意を要すべきことあり天候のため特に土壤中の成分を分解したる場合の翌年は却て成分の不足を來すことあり故に之等の事情に注意せざれば意外の結果を生ずるなしとせず注意を怠るべからず、追肥には葉艶手觸りに重きを置き其の發育の程度を參考となす、葉艶を倒せば日光を受けたるとき其の葉に艶光なきものは凡ての成分に不足せるものならん葉固有の發育をなしたる時中央葉脈の左右に於て綠色の底に黃金色を呈するに似て其所より追ひ掛る如くピカリピカリと光輝を發するものは窒素燐酸の均衡に於て完全なるものならん、黑ずみたる綠色のものは窒素勝なり黃色の勝ちたるものは窒素の不足、葉薄くして手障り荒きものは總ての肥料不足葉に手を觸れて地質良き絹織物に觸るゝ如く柔かなる内に力ありてバタリバタリと手應へあるものは加里の完全なる肥効を奏せるものとなす余の標準大畧此の如し言葉にては盡し難し實際に於て認めらるゝならば言外の眞意を知悉し自得せらるゝことを信ずるなり

扨余の栽培上最も重きを置くは根を發育せしむることにして其の根に標準あり桃梨萃果等の如きものは何れも主根を四方八方に張らせ之に毛細根を多く發生せしむるにあり恰も柳の根の如く細根をして周圍一面に絡ませ一見細根のみと見ゆる如くに發育せしむるを要す、此細根を此の如く發育せしめれば余は以て成功となすものにて此の如き細根を有する樹には花芽の着生多く固有の肥大に色澤とを呈し實に優美の生產物を得べきなり、結果の少

き樹は細根之に反せるものにて一度驗すれば明瞭なり故に營利的栽培に於ては此細根を誘發せしむる最良法と信ず而て之を發育せしむるには肥料の種類を選び其の施肥の方法に注意せざるべからず余の施肥方法といふのは即之れにて余は之を栽培の主眼とせり、其の方法は初め樹を植付る時に於て最も注意し苗の根を切り穴の準備も整ひたる後之を植るに更に肥料を施さず其地の土壌を以て約八割計り土を覆ひ其の覆ひたる土の上及其年に發根すべき位置に初て施肥となす之れを基肥になす、其の肥料の種類は堆肥とす(有機物を腐らしたもの)其の基肥の上に更に欲する肥料を施し後土を覆ふ故に淺肥となるなり爾後追肥を與ふる時も翌年原肥を施す時は前年の基肥の見ゆる迄の程度に土を除き黑く基肥の顯るに及びて止め前年の基肥の上に先づ原肥を施し其の原肥の上に他の肥料を施し其樹の栽培中此基肥を動かさざるを法と爲す追肥の場合も亦基肥の上に與へ分解したる養分は基肥に吸收せしむる樣取扱ふなり此の如く施肥せば毛細根は自然に發生するものなり、要は果樹に於て養分を吸收せんとせば先づ毛細根を生し基肥の中に挿入せざれば吸收し能はざる如く企つるを全き施肥法と爲せり、此の如くせば樹を健康たらしむるものの如く病虫害に對する抵抗力も亦增進せしめ得るものに似たり、樹は比較的に太く短かく力あるものとなるは余の多年實驗の結果疑はさる所なり肥料の種類は概ね遲効肥料にして時に速効肥料も補ひとなすことあり、余は特に加里の石灰を賞用するものなり加里の種類は土壌により撰擇する勿論なれ共酸性を有する土壌に就ては木灰に石灰を加用したるもの其の肥効に於て宜しきを信ず余は之を粗製加里と假稱す、之を製するには木灰に對し石灰の量約二割とす(自園の樹の必要に對しては一割五分乃至三割となす、素より差支なし)石灰を二割とせば木灰百貫に對し石灰二十貫なり之を同所に置き之に如露又は杓にて水を注ぐ右百貫の木灰に對し水量八九斗なれば可なり而して徐々に此れを注ぎつゝ木灰と石灰を切り返すなり普通三度切り返しを行へば混合するものなれ共今一回切り返すを優れりとなす而して之を積み重ね灰俵又は古莚の類を以て覆ひ約二週間の後施用するものとす尙肥料は種類により土壌により風味品質に關係するを以て品種及目的等により肥料の撰擇に注意すること忘るべからず尙一言參考に供するは栽植後十五六年乃至二十年にも達したる梨樹には一般落葉期よりも一段早く落葉するものあり之を回復するには梨樹を栽植せしことなき土を一樹に付約五六十貫(以上多きだけ

よし)其の根邊卽施肥する所に覆ひ置くべし然る時は葉厚く光澤優りたるものとなり却て一般の樹に優りて落葉するに至る故に花芽肥大し樹をして旺盛ならしむ其の理由は知らざるも實驗して誤りなきを信ずるなり

一、剪定の所感

余の認むる所に於ては天然の樹は多く半圓形の樹頭を現はせり此半圓は其枝梢の養液を分配し吸收するに關し平均を得易き爲にもあるべけれど恐らくは日照を迎ふるに最も適するを以てならん、此半圓形を逆に轉じたもの卽杯狀形なり、故に杯狀は天眞の樹形より來たるものと云ひ得べし、余の樹形に於ては此現象に從ひ杯狀を主とし時に半圓に近きものとなす、而して半圓は自然なるべきも病虫害の豫防驅除に不便なるを以て杯狀を主となすなり、余の剪定に關する注意事項を列擧すれば大畧左の如し

一、日照卽光線の關係
二、養液の吸收關係
三、花枝の交換
四、程　度
五、目　障り

以上五項とす內最も日照を主とし程度を得るに努め花枝の交換に特に注意し目障りの枝なきを要にせり此五項に於て行屆かば以て剪定の大要を得るならんと信ず余の剪定は斯の如く樹本位となして人本位たるを喜ばず余は常に果樹其物を師とし弟子として研究をなしつゝあるものにして樹に親しまざれば樹本位となすこと能はず、樹本に位して視察すれば一枝一葉も不必要のものなく養液の如きは實に經濟的に消費せらるゝもの其の形体に於て不平等不均一の所に於て却て平等均一の点あるを認め得るものの如し、此点は各樹の異なるによりて同じからず殊に種類の同じからざるものに於ておや、依て余は先づ剪定を爲さんと欲せば果實の採收に留意すべしと力說す其の採收に於て其の樹の美果を產するの位置其の樹の個性を覺知之に適するものを成るべく多く生せしむべく剪定するを要す

而して前述の五項を適用して日照を能くし程度を誤らざるに留意す一般の書類及普通に指示せらるゝ所は皆定法には相違なかるべきも余は單に果樹本位と爲すに依り初めより其の主枝を何本又は何尺何寸にて之を切るといふが如きを採らず植付初年の剪定は枝下の作業に差支なき程度に於て成るべく低く切斷し之より發生するものは何本たりとも之を放任す二年目の剪定の時は梨萃果にあり

ては其枝に花蕾の着生するを度として剪定するを以て寸尺に關せざるなり其の發育の程度に隨ふを專とせず、又種類により同じからざれば素より一樣ならずと雖も其差支なしと認むるものは植付の翌年より結果せしむるを例とせり殊に桃の如き結實し易きものは一年苗又は芽接苗等植付たる場合も一樹廿乃至五十顆位を程度とし三年目は前年より一樹約五十顆を增加して差支なきを信ず梨も亦和洋共結果し易きものは翌年より結果せしめ三年目に至らば一樹三貫乃至七八貫位は其樹により差支なからん是亦余の實驗する所ならん勿論其樹の發育及施肥土壤等に關するを以て斷言する能はざるも此の如き樹を養成するには剪定も亦之に適合するを要するなり、而して主枝は桃にて三本梨は棚作ならば四本抔狀ならば四本乃至六本位を適當になすべきを以て七八年後には其の主枝と爲し得らるゝ樣注意すと雖別に限らず唯其樹の發育に隨ひ五項に適する樣なすのみ剪定に關しては施肥及病虫害と密接の關係あるを以て余之三つを鼎足と稱す其一を缺かば全を得ず大に注意すべき要件なり

余の剪定に於る所感を露骨に曰はば學說實驗共に信ずべく全く賴るべからず自己自園に於ける實驗も尙去年の暦の如く昨は信ずべく今は賴るべからず、要は學理實驗は是れ我の參考になすべく其學理を實物に應用し其實驗を實物に活現し妙用して窮りなきに至らんことを望むのみ日日に新にして又日に新なるは物其物の本性なりと信ず此の如き所信を以て剪定するを余の剪定と稱するなり

一、病害の豫防

病害の豫防劑としては今日種々ありと雖も余の栽培果樹に對し最も有効と認むるものはボルドゥ液及硫黃合劑をりとす、之か製法は既に知了せらるゝ事と信ずるを以て茲には單に調製上注意すべき事柄に付申述べん先づボルドゥ液を調製すれば其液に上澄を生じ易く其の多くは斯る液を撒布しつゝあり此液の撒布に關し時間の制限あるは將に其上澄を生ずる爲なるべし、然らば撒布しつゝある液の上澄となるは制限外の液と同樣なるべし、上澄のなき液に非されば効力も亦充分なりといふべからず余は之を思ひ其の上澄を生せざる液を造らんとして甚だしく苦心したる結果上澄は石灰の沈澱に依て生ずるを認め爾後希望通りの液を調製するに至れり之には二人を要す一人は石灰乳一人は硫酸銅液を各別に持ち同時に他の容器に移す際に二人の內總てに於て相優れる方に石灰乳を持たしむることとせり而して石灰乳を能く攪拌し液の動

きつゝある間に二人掛聲にて同時に混入せしむるにあり其際は十分に力を加へて成るべく速かに移すことを忘るべからず且硫酸銅液に石灰乳とを同時に混入せしむれば可なれ共若し石灰乳の硫酸銅液に後るゝ時は必ず上澄を生ずるものと知るべき、但し硫酸銅液の後れたるものは別に其害なきを常とす、故にボルドゥ液を調製するには石灰乳を持つ人最注意せざれば有効の液を製し難し而して普通赤星病の場合には生石灰七八十匁を用ふれ共葡萄には成るべく石灰の少量なるを可とす卽四五十匁の石灰となせり唯梨の黑星病に對しては特に生石灰百匁乃至百二十匁を要す少量にては効なきに至る

硫曹合劑の原料には普通硫曹若干を用ふれ共余は効力に差なく且價廉なるを以て硫曹塊を用ひつゝあり余の如く硫曹塊を用ふるには先づ臼にて粉抹となし普通粉を通す篩にかけて用ふるを要す其の粉抹の粗なるものは多くの燃料を要するを以て成るべく細抹となすべし其量は生石灰の倍量とす卽生石灰五百目と硫曹一貫目の割合とす煮沸時間は硫曹を投じ（投ずる際硫曹華なれば水がきを要すれ共此粉抹なれば之れを要せず）てより約一時間にて可なり而して煮沸したるものを原液となし貯藏し置くべし硫曹合劑を使用する場合には必ず原液を他の適宜なる容器に移し之れに相當の水を加へ十度液になす之を使用原液と稱し余は特に斯の如くなしつゝあり度を秤るにはボーメーの比重計をよしとするも價安からざるを以て余は醬油メートルを代用せり藥液の調製に當りては其の間違なからん事を欲するを以て使用する度毎に必ず十度たるや否やを改むべし而して時に隨て稀釋し使用することとせり冬季落葉後より發芽前迄の間は二倍液卽水を等分に加へたるもの（約〇、五度）を撒布せり、發芽當時より七月迄は二十四倍乃至二十五倍液（約〇、三度）八月より九月中旬迄は三十倍液（約〇、二度半）九月の半ばより以後は三十五倍液 約〇二度）となす右何れも十度液の稀釋量なり但し注意すべきは旱害を蒙れる時は此度にて落葉することあり但し旱害の程度によるを以て一概に何程と曰ふ能はず注意せられたし余は梨の赤星病に關し明治三十二年より滿十ケ年苦心して漸く之を豫防するに至れり其要は胞子の飛散する際ボルドゥ液を撒布するに非れば豫防し能はざる如く又之が飛散は降雨に關係せり故に雨の前後に於て撒布すれば効あるなり雨前と雨後とは聊か雨前の方効力大なれ共雨後に於ても能く豫防し得らるゝなり蓋し雨後の時は雨止みたるより四時間以內に非れば効なきに似たり故に雨後とせば時に夜中に撒布するの歇むなきに

至ることあり、依て成るべく雨前に撒布し時に雨後に撒布する事になすを便なりとす而して胞子の飛散する時は地方によりて一定せざるべし、我園地にては四月に入り降雨三十分間以上に及べば飛散すと雖甚だ少數にして被害と曰ふに至らず其の多く飛散するは四月二十日以後三十日迄の間とす最も恐るべきは三十三日頃より二十八日頃迄の一週間とす此間の雨に風を添ふ時は猛烈に飛散し被害殊に甚し此風のため遠く飛び來るものならん、此間の雨に注意して藥液の撒布を怠らざれば被害のなき迄に奏効するは實驗の証する所なり然れ共之は當園當地方のことなり地方地方によりて注意あらん事を望む何れの地方にても肝要の時期は一週間を出でざるべし、一週の期間なればボルドー液を撒布する回數も一二回に過ぎず三回も及ぶは稀なり此時期外に於て撒布したるものは其効なきを常とせり而して胞子に二樣あり杜松の幹又は枝に生ずるものと主として葉上に生ずるものと即之れなり地方によりて同じからず、例ば岡山縣下に於ても赤磐郡可眞村に於ては葉上に生ずるもの多數なれ共都窪郡倉敷町に於ては其葉上に生ずるもの未だ一も發見したるなし此主として葉上に生ずる地方は胞子の襲來は猛烈なれ共飛散の期間短かきを以て時期を誤らざれば一二回の撒布にて十分豫防し得れ共倉敷地方の如く幹又は枝に生ずるものは降雨に何回も飛散するを以て撒布回數も亦多からざるべからず從て豫防は此方却て困難なり之を根本的に豫防せんとせば園附近のビヤクシン、イブキ、トシヨウ類を掘株すべし然るときはボルドウ液を撒布せざるも被害なきに至ること可眞村字稗田に於て之を證するを得るなり

黑星病豫防に關する余の實驗は果して學說に一致するや否やを知らず或は今日に於て齟齬なきを保し得ずと雖も余は此方法により豫防しつゝあるにより一應之を述ぶれば第一回のボルドウ液撒布は梨の蕾を抽出するに同時に苞の鱗片剝離するものなれば此鱗片の其の樹種に對し約三四割離落したりと認むる時に行ひ第二回は其樹の枝先の八九割離落せる時卽其の樹種に於て離落の終りに近きし時第三回は夫れより一日を隔てたる時都合此三回の時期を誤らざれば不思議に豫防し得らるゝものなり長く實驗したる事にて其の間違なきを證す併しながら其の撒布完全ならざる時は病菌の葉を害すらなしとせず之を認むるには爾後果梗に注意し其年果梗に煤樓のもの些少にても發見するあらば其の撒布の不完全ありし証なるを以て其以後新葉の五厘銅貨大までの間にボルドウ液を時々葉の發育を待ちて數回撒布するを忘るゝ勿れ（赤星病の豫

防なせば相兼るを得）初め之を撒布せるに當り何れの点を目的として注射すべきやと曰ふに果梗の基却卽雷を抽出せる其果梗の集まれる所を以て標準となすべし但し液は凡て三斗式なり桑名先生の示敎には藥劑の調製完全にして其撒布の時期を逸せず其方法の宜しきを得るに非んば桑外奏効せざるなりとあり余は實驗に於て其の格言たるを信ず尙余の希望を陳ぶれば藥劑の散布に際しては恰も敵に對するの覺悟なかるべからず若し一歩を誤まれば藥劑の眞價を失ふのみならず自己の勞力をも無効とし更に病蟲たる仇敵に蹂躙せらるゝに至るべければ其の噴霧器は軍隊に於ける銃器の如く考へ之に精神を集注せしひるを肝要とす時來るも空腹たるを覺ゆる四肢の疲勞も感せず專ら氣のかゝりたるを貴ぶ是れ藥劑散布に於ける余の心得にして又秘訣なり而して藥劑の散布には噴霧器の使用巧妙ならざるべからず之を近くせざれば効少きものあり之を遠くするの必要なるものあり或は多量に或は少量に其散布の時により物により目的によりて加減せざるべからず使用の際風の有無によりて之を遠近に之を左右に上下にするの必要も生ぜん撒布は容易の業にあらざるなり例せばボルドウ液は細微の玉となりて附着するを要す之を玉に附着せしひると否とは噴霧器使用の如何によれり近ければ一面に雨の如く流れ落ち量少ければ更に附着せず流るゝ如く撒布したるものは乾きたる後却て稀薄なり之を遠くするには何程にすべきや一定せず無風の時あり風ある時ありと雖其多くは風あるの時なり風力に時々移轉の差あり方向も種々にして一定せず實地に於て自得し手加減に依るの外なし強て之を概言せば無風の時ならば三尺乃至三尺五寸許り噴霧口を離れて細霧を波動的に送らば其の附着液は概ね玉となるものなりされど噴霧の强弱に關するは勿論なり風ある時は其の風力に應じ五六尺より一丈許の巨離を要するものの如し又硫曹曾劑を貝殼虫驅除の目的にて撒布するに横枝に霧斜に注くこと容易なるを以て多くは斜に注く人あれ共斯くすれば兩方面より斜に注がるゝを以て上部は糸の如く液の附着せざる所生ずるものなりサンホーゼの如き數疋存在せんか其の秋遊には全枝殆んどサンホーゼとなるが如き蕃殖を見るに至るは實驗する所なり且枝の末端殘り易く此部分に多く附着せるコンマ介殼虫の驅除比較的面倒なるに徵して明かなり之を全部に殘りなく散布するには霧噴器を如何にすべきや其の藥劑により其の時期により散布の不完全なりし爲め葉を害するあり其目的を完全に有効ならしむるには頗る工夫を要するなり散布も亦一種の技術なり容易の業にあらざるなり普通

の病害に對しては發病前十二三日前に藥劑の散布をなすを好時季と信ずれ共梨のヒブラレ病及ウドンコ病等は其の病徴を認めて直ちに散布せば其効を奏するものなり葡萄のタンソ病に對しては一斗式ボルドウ液に一ポンドの硫酸鐵溶液を加へ刷毛塗りと爲すを良法と信ぜり冬季一回發芽前一回都合二回にて効能顯著なり

一、害蟲の驅除

害蟲驅除劑を近來種々發表せらるゝもの多けれ共其の價に於て其の効力に於て余は六液を最も優れるものと信ずるを以て六液調製方法を述ぶべし、本劑は去る明治三十五六年の頃より鋸蜂卽葉蜂發生し桃梨苹果等の葉を喰害するにより之を驅除せんと欲し苦心の末三十七年に發見したる藥劑にして爾後各種の害虫に効あるを認め六液と稱して一般の害虫驅除に用ふるに至るなり獨り果樹のみならず普通作物にも亦散布せられつゝあり稻苗代の如きは一度本劑を散布せば三日間は更に諸害虫を見能ざるに至ると稱し一般に使用するに至れり本劑の調製は除虫菊粉五匁十匁輕油又は石油五勺乃至六勺石鹼五匁乃至十匁水一斗とす是は一斗の六液を製するの原料なり菊の粉は粉末となし販賣せるものにて差支なけれ共乾果のまゝ購入したもの又は自作のものに比すれば効能少きを認む故に余は花を購入して使用せり花を使用するとせば此乾花を臼にて碎き小米通し位の篩に通したるものにて充分なり此粗粉を以て製する時は袋に入れ絞り出すの要あるを以て木綿の二尺許りの布を二つに折り糊漉し袋を製し置くべし石鹼はマルセールを可とす、之を製するには先づ菊の粉末を鍼力鑵又は廣ろ鉢又は少瓶等の類に盛り之に輕油石油(にても差支ふさも輕油の方廉にして効多し余は輕油を用ふ)を加入すべし而して油の量は菊の粉末を浸漬せしむる丈にて可なり(油を注ぎたる時攪拌するを要す)菊の粉抹類なれば或は油七勺許りを要する事もあるべし此油にて有効成分を浸出せしむるなり其の時間は十時間以上とす故に翌朝調製せんとせば前晩又は前夕準備するを便とす(油は稀薄油なれば効力一段優れ共容器不十分なれば揮發することあるを以て輕油を便とす)浸出器は有蓋のもの可なれ共無蓋も亦敢て不可とせず石鹼は溥く削りて熱湯を注ぎ能く攪拌し全く溶解したる時其の湯加減を試み熱ければ水を加へ以て微温湯たらしむべし此石鹼の水量は五合にても一升にてもよし別に同温度位の湯を二三升設け置き前の石鹼水を浸出液の方に移しても亦浸出液を石鹼水の方に移しても差支なし此石鹼水と浸出液とを混合し袋に入れ豫め容器の内に裝置しある適宜の

板又は棒に押し當て絞り出すことゝなせり液出止みたる時は別に設け置ける微温湯の中に袋を入れ能く振ひ動かし又前の如く絞る之を四五回繰り返す時は黃色の液は出ざるに至る黃色液の全く出ざるに及べば之を度として止め袋を入れたる湯を此容量に移し平ポンプにて十分液を突き込む樣押し出すべし單に攪拌したる丈にては不十分にして此液の内に空氣を入るゝの要あるを以てなり油の分離するもの全くなきに至り其後れを加へて定量となす是れ六液なり而して吾人が脂肪分の多き樣觀察し得る蟲に對しては石鹼の多量なるを要し又吸收口を有するものにも石鹼は多量たるべし菊の粉抹は蟲の種類によつて一定せず抵抗力の强きものには多量を加ふべきなり總ての藥劑に於て特に適藥と稱するものあり例へば蜂の類には菊を第一とし蜘蛛壁蟲の類には硫曹にあらざれば効なく所謂脂肪分の多き蟲には石鹼液を妙とすべし天候により蟲類の發生又は蕃殖に影響するは明かなる事實にして降雨量少き年には赤壁蟲車配蟲之に反し降雨量多き年には蚜蟲の發生甚しき如きは正しく此一例なり總て蟲は体の大なるものより其の小なるものに注意を怠るべからず小なるもの却て蕃殖力に富み被害も亦大なるものなり而して驅蟲の妙は其の發見の早きにあり冬季に於ける樹の掃除の十分行屆くにあり共に驅蟲に關し最も肝要の事項とす又時期に注意すべし驅除し易き時と驅除し難き時と有るものなればなり例せば皮もぐりの如し樹皮の剝皮する時に敢てせば甚だ容易なるも幼蟲の時代及成蟲の時代には殆んど驅除の道なきが如し余は本蟲の驅除を六月及八月の中下旬に行ふ卽其の繭の内に蛹化するの時なり而して繭は保護色を以て覆はれ居るを以て一見之を認め難きも之を捕獲すれば其の蒲鉾形の所は繭なるを知り得るなり或は蟠象の如く卵塊又は幼虫の卵塊の上に群集するの時に於てせば容易なるも成蟲となりては之に反するが如し又大心喰は冬季花芽の周圍を細く喰ひ廻して枯死せるものを切り集め春季苞の鱗片を果梗に綴り居るを取り去り姫心喰は桃の心折の時切り取り梨の實蜂は産卵前六液を散布する等其の時期を逃せざるに効あり梨の葉卷蚜蟲の如き苹果桃等の縮葉蚜蟲の如く其の初めを誤まれば自然消滅を待つの外なきに至る、害蟲の種類は甚だ多く余の驅除に經驗したもののみにても尠からず害蟲の驅除に關しては栽培者は果樹に親み熱心に之を保護すべきの責務あるものとし時に園に入り總てに注意し其初期に發見して直に驅除に從事すべし其の播殖盛なるに至り驚くが如きは栽培者を以て自任するものの恥づべきことならずや

忘るべからざるは油斷大敵の敎ならん尙特書すべきは近年各地にて梨姫心喰蟲最も被害甚しと聞く故に本蟲豫防に於て大ひに効力ありと信ずる余の實驗を參考に供すべし其要は六液を七月下旬より九月上旬迄の間に於て四回撒布することにして斯くすれば殆んど被害なしと曰ひ得らるゝの成績を得たり之れなり而して其効は撒布の多きに有り反百本植にて八年以上のものと假定せば一樹に撒布する一回量は一升五合以上を要す其の樹の大なるに隨つて其量多きを要す余の知人は一樹四升を撒布したる結果梨の果實八百貫に對し僅かに二貫の蟲入りありしのみと稱せり余の六六園に於ては(一荷約十五六貫)に對し蟲入三四顆を普通とせり撒布は七月下旬に於て一回以後約十日置に總て四回の撒布せば殆んど被害なきに至る

右は小山氏の岡山地方に於る桃梨葡萄に對する多年の實驗にして多少事情を異にすれ共其の豐富なる御研究を大ひに斯業に從事するものの參考たるべきを信じて茲に掲載す

□甘藷採種圃に就て

甘藷は飯に混せて常食とし或は副食物として賞味せられ其他澱粉を製し若くは各種の工藝原料に供せらるゝ等其の用途甚た廣く國民の食糧として古來米麥に次で重きを措かるゝ所以は今更喋々を須たぬのである本縣に於ても時代の要求に鑑み本年度より各郡へ甘藷の優良品種を配布し閏ねく之が栽培を奬勵する方針にて先づ數個所に採種圃を設置さるゝに就き本縣農事試驗場より之が原種を供給することになつて茲に栽培法の標準を示されるに由り一般の參考に資するわけである

一、當場に於ける苗の仕立法

(イ)苗床の構造　苗床は三月中旬頃下拵をなすのである、先づ床幅七尺長さ隨意方位は南北にし其材料は麥稈又は藁把にて周圍を厚さ一尺二三寸とし其中に落葉又は麥稈藁等を切りたるものと厩肥とを混じ踏み付け平らかにし其上に肥土を四寸位の厚さに置き其床面の周圍に藁肥又は麥稈を一把宛置き肥土の流失を防くと同時に保温に便ならしむ、培土には腐熟堆肥を混じ床面一坪に付き人糞尿五升位を薄めて施し更に其上には砂を一寸位の厚さに敷き種伏の準備とするのである

三月下旬に至り凡そ一坪に對し十五六貫目の種藷を一列は頭部を東に一列は頭部を西に交互に並列し藷と藷との巨離は拇指の狹まる位に置くのである、種藷の大なるものは深く小なるものは淺く伏せその上部に高低なき樣注

意し其上に細砂を種藷のかくる迄振掛け更に籾殼(豫め細砂三分位と人糞尿の少量を混じ切返し置きたるもの)を一寸位の厚さに撒布し、次に蓋として藁袴(俗にアクタと稱す)を四寸位の厚さに置其上を又吉蔗若くば菰を以て覆ふて置くのである

(ロ)管理　苗床の温度は華氏七八十度位が適當で若し九十度以上に發熱すると種藷を腐敗せしむる事があるから常に注意し其際は蓋や覆を薄くし尙高温に失するときは所々に穴をあけ冷水を一坪に付一荷位注入するがよい、夫れにても尙高温なるときは種藷を取除き所々にに穴をあけ蒸熱を發散するのである、但し雨天續き濕氣充分あるときは九十度位は差支へないのである、種伏して十日位にて種藷は頭尾に根を生し所々に發芽するものである、發芽二三節となりたる時、暖かい日に覆の菰をとり藁袴を薄くし日光に晒し苗の强健を圖るのである、若し藁袴雨濕に遇ひ濡れたる場合は乾燥せるものと取換へを要す又上部の藁袴を良く乾燥しても良い、其後は毎日日中は日光に晒し、夕方は防寒として藁袴を充分被せ覆をなすのである、四月下旬に至り温暖となりて降霜の恐れがないやうになつたなら世話はないのである、苗の發育期間晴天打續き苗床の籾殼又は砂に水分不足を生じたる場合は適當に灌水を要するのである

(ハ)苗の切取り　此樣に仕立てた苗は芽苗と稱し普通の蔓苗とは異り苗八九寸に生長し節數の多いものより順次に根部の白い所より及物にて切取り二百本位を一把となし直ちに本畑に挿植するか又は他に輸送するのである、夫れ五月中旬頃より六月迄に一番苗　二番苗、三番苗と順次に切取るのである、挿植の際は根元の白根は必要がないから切棄て頂芽は摘み植込めばよいのである、甘藷苗は少しく莖葉を萎凋し栽植するのが却て收量が多い位で切取り後數日を經たものが好結果を得る樣がある、然し遠方より到着した場合は、直ちに開封して蒸熱を防ぎ陰濕の所に置き苗の快復を講ずる事が大切である

二、採種圃の位置及土質

(一)位置及土質　日當り風通しのよいのは勿論排水のよい砂質地又は、砂質壤土で地力は脊た位の處がよく肥た土地は出來過ぎて却つて收量少なく種藷としてもよくないのである

三、整　地

甘藷の早植は普通麥の畦間を耕鋤して其處に挿植するのが苗の保護にも適し成績もよいのである、株間は一尺から一尺三寸位が適當で、一畝歩に付き四百本から本四百五十本位の見

當でよい肥料を施す場合は豫め麥株の南側に四寸位隔りたる所に一尺二寸位の距離に點々堆積しておき、其場所に挿植するがよいのである、尤も肥料は腐熟したる堆肥や木灰位で新鮮なる厩肥等は諸苗の生長を害する患がある、若し前作に麥がない場合は從來の方法でよいのである

四、挿植の方法

甘藷苗は五月から七月中旬頃迄は何時植へても良いが豐產なのは五月下旬から六月上旬頃が一番よい樣である、栽植の方法は立植、斜植、船底植等があるが立植は苗の畦上に眞直に直立して栽植する方法で根端が比較的深く土中に入るから土地の乾燥し易い所に好いのである、斜植は苗を畦上に斜に向け挿植するので此方法も比較的土地の乾き易い所に行ふが利益である船底挿は釣針植とも稱し苗の根部を土中に彎曲に埋めるので一般に最も利益多き方法である、蓋し苗が比較的地表に近く一樣の高さを保つて埋沒せらる爲め根の發育良好なることと地中に埋めらるゝ節の數が多い爲めである、此方法を行ふ場合は其地表に現れたる部分はなるべく眞直に立てる樣に注意することが大切である、苗の梢端は畧二寸位殘し其他は被土し、其中程を能く手で壓するのである、此際比較的濕潤なる所は輕く壓し、乾燥せる土地又は旱天の場合は少しく強く壓し置く必要がある、若し畑地が甚しく乾燥してゐる場合は少しく深植するか又は出來得る限り灌水するがよろしい

五、肥料

甘藷の肥料としては燐酸加里肥料を主とすべきもので、窒素肥料の多用は却て莖葉繁茂し根部の發育を害するから注意を要するのである、普通反當木灰十五貫過燐酸石灰五貫目位を施用すれば充分である、殊に瘠地は堆肥百貫人糞尿五十貫位又は米糠の十貫目も施用すれば充分である

六、中耕除草

麥刈取後成る可く早く中耕や除草をなすと同時に培土を行ひ、若し追肥を施す場合は此際掛肥をするのである、培土は苗の根元に土を寄せぬ樣に注意を要し終了後は麥稈を一面に敷き雜草の發生や發根を防き又旱害の豫防に備へねばならぬ

七、蔓返し

甘藷の栽培上蔓返しは大切な作業の一つで、若しもこの蔓返しを行はぬときは節から根を發し莖葉は徒らに繁茂生長して、其細根も漸次肥大し爲めに肝腎の株元の甘藷

は充分の養料がないため完全な成長を遂げる事が出來ず從つて品質の劣等な藷となり且つ其收量が少くなる譯である、そこで蔓返しを行つて白根の發生を未然に防止し既に發生しかるものは其成長を止めて一方莖や葉の徒長するを制し藷の肥大充實を圖るのである、蔓返しを行ふ時期は蔓が三四尺に伸長したる頃より九月下旬頃迄に三四回成る可く晴天の日中溫度の高いときがよいのである蔓返しの際、注意すべきは苗の根元より五六寸位迄は眞直に保つ樣にすることが肝要である

八、收穫

種藷とすべき甘藷の收穫は十一月上旬頃其葉の稍々黃變した頃十分熟したるものを見計らひ採收するがよい堀取りは晴天にして土地の良く乾燥した時を選び基を五寸位藷に付けたる儘切取り熊手を以て叮嚀に堀り甘藷に傷を付けぬ樣注意する事が肝要である、堀取りたる甘藷は其儘畑に於てよく乾燥させ日暮前に屋內に搬入し斯くすること二三日間にして直ちに貯藏するがよい、長く土間に放置し置くとか畑に於て雨露に遇はしめることは極く惡いのである

九、貯藏

種用として貯藏する藷は殊に注意を要するので屋內適宜の場所に幅四尺長さ適宜深さ三尺位の穴を堀り籾殼又は麥稈等で貯藏するも良いが高燥にして排水良好なる土質の場所を幅三尺長さ適宜深さ四五尺位の穴を堀り其穴底及側壁は藁を一面に當て其中に藷を五株乃至十株位を蔓を束ねて一束となし規則正しく並列し一通り並べ終へたら其上に藁を一面に敷き更に甘藷の束を並べ次に藁を敷く斯く反覆して地表面に至りなば最上部に籾殼を厚く廣く被ひ土を盛り固く踏みつけおき其上に屋根を設け雨水の浸入を防くのである、茲に注意すべきは甘藷貯藏中發生する瓦斯を排出するため換氣孔を設けることである、即ち竹筒の節を拔いたものを四五尺の長さに切斷し之れを數個所立て置き筒先の上部は雨水の浸入を防く設備を施すことが必要である

十、品種の特性

優良と認むべき主なる品種の特性を示せば左の如し

品種名	早中晩	品質	特性	特產地	摘要
八幡	早	粉質 紫蔓	外皮白	神奈川縣	早生栽培用 間食用ニ適ス
五島	早	粘質 赤蔓	三葉 長崎縣	早生栽培ニ適ス 常食用ニ	
大正赤	早	粉質 赤蔓	外皮紅赤	兵庫縣	可ナリ
		優良	外皮紅赤	千葉縣	間食用殊ニ蒸又燒藷用ニ適ス

參考資料

蔓無	早	粘質稍良	青蔓伸長セズ外皮薄赤	同	早生栽培用ヌ澱粉製造用特ニ肥沃畑地ニテモ良シ間作用ニ適ス
蘇原白	中	粉質良	赤蔓外皮白	岐阜縣	間食用貯藏用ニ適ス
蘇原赤	中	同	赤蔓外皮赤	同	同
元氣	中	同	青蔓外皮薄赤	九州各縣	間食用貯藏用ニ適ス
アメリカ晩	粘質良	青蔓外皮白		大島郡	常食用貯藏用ニ適ス

兵事

□大正十年陸軍入隊及事故者

一、大正十年十二月現役兵ヲ以て各隊に入營したる者左記の如くにして昨年に比し事故者減少し成績良好なり

別表參考資料參照

▼事故飯郷者及不入隊者

大正九年　十五名

大正十年　九名

▼一年志願兵として入隊者

服役部隊	町村名	氏名
歩兵第四十二聯隊	秋穂	林直一
仝	仝	河村宥介
仝	仝	谷村耕三
仝	椿	村上敏憲
仝	椿東	藤田孫吉
仝	仝	小枝愼一
仝	仝	堀永德太郎
仝	仝	中尾二郎
仝	仝	本山院
仝	仝	大田政郎
仝	仝	杉山泰彦
仝	椿東村	松本忠一
仝	仝	植村文逸
仝	仝	佐々並村田定由
仝	仝	武田正三
仝	仝	内山不二夫
仝	仝	川上竜一
仝	仝	長嶺華三
仝	仝	林英男
仝	椿東村	中村博
仝	仝	清石
仝	仝	國司主税
仝	仝	森田胤光
仝	仝	須佐村
仝	仝	嘉年村
仝	仝	小川村
仝	仝	波多野重恒
仝	仝	高津正夫
仝	仝	三見村
仝	仝	生雲室田
仝	仝	福江外雄
仝	仝	蟹川賀人
仝	仝	小野上定
仝	椿東	椿東村廣
仝	仝	萩稲重一
仝	仝	椿東三輪杉四
仝	仝	嘉年大枝滿熊
仝	仝	秋穂綿貫秀雄
仝	仝	仝糸賀眞喜
仝	仝	椿東田中忠介
仝	仝	平野四郎
仝	仝	粟屋東一
仝	仝	桑原芳樹
仝	仝	熊谷四郎
仝	仝	第一師團歩兵第一聯隊
仝	仝	仝工兵第一大隊
仝	仝	仝（獸醫生）（軍醫生）（藥劑生）
仝	仝	歩兵第十一聯隊
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
仝	仝	仝
近衛歩兵第三聯隊（主計生	椿東	熊谷四郎

▼一年志願兵延期者

□大正十一年海軍志願兵檢査成績

本年度に於ける郡内の海軍志願者總數は七十三名にして内不參者二名計七十一名の受驗者ありたり今之を昨年の志願者總數百十名不參者六名受驗者百四名に比較して約三割强の減少を示せり是れ華府會議に於ける海軍縮少問題に影響する所尠しとせざるは固より本郡のみならず縣内各郡市共大体に於て本郡と同樣の狀況を見るに至りたるは久止むを得ざることといふへし（別表參考資料參照）

目次

一、町村立小學校兒童出席步合表（一月分）……一
二、同　出席缺席狀況（第二學期）……五
三、同　缺席狀況（第二學期）……六
四、町村公民數調（大正十年末）……七
五、縣會議員選擧確定人員（同　）……八
六、部落に關する調査（同　）……九
七、大正十年十二月陸軍入營人員……一〇
八、海軍志願兵体格學力成績（大正十、十一年）……一一
九、山口縣下海軍志願兵体格學力成績（大正十、十一年）……一二
一〇、山口聯隊區管內受驗壯丁成績（大正十年）……一三
一一、阿武郡產米調査……一三

一、町村立小學校尋常科兒童出席步合表（其一）　壹月分

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
立野	九九、五五	九八、六八	九九、一七	一	一
椿西	九八、七三	九九、〇八	九八、九一	二	七
明木	九八、六七	九八、三六	九八、五二	三	二
宇田川上	九八、六八	九八、三一	九八、四三	四	六
高瀨	九九、〇五	九七、六七	九八、三四	五	四
龜山	九八、〇一	九八、二六	九八、一三	六	三
長高	九八、二九	九七、〇〇	九七、八七	七	一一
三見	九八、一五	九六、九七	九七、五六	八	九
佐々並	九七、五七	九七、一一	九七、三四	九	八
相島	九六、九六	九七、〇三	九六、九九	一〇	三一
木間小	九七、一四	九六、三三	九六、六七	一一	五
多磨	九六、七八	九六、四九	九六、六四	一二	一六
越ケ濱	九六、八八	九六、三四	九六、五六	一三	一四
半田	九七、八四	九四、八八	九六、四三	一四	九
見島	九六、九七	九五、八七	九六、四一	一五	二一
地福	九七、一九	九五、一八	九六、二三	一六	一九
三谷	九七、一四	九五、二二	九六、一八	一八	一五

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
福川	九六、〇一	九六、二四	九六、一二	一八	一八
德佐	九七、八〇	九五、五九	九六、一〇	一九	二九
嘉年	九八、一一	九五、四〇	九五、九二	二〇	二二
紫福	九五、九一	九五、六一	九五、七六	二一	一七
大井	九五、八六	九五、六五	九五、七五	二二	二三
下川	九七、〇九	九四、四四	九五、六九	二三	一二
小富	九六、五九	九四、七三	九五、六七	二四	一七
彌田	九五、六二	九五、四三	九五、五三	二五	三〇
福倫	九五、六三	九五、二六	九五、四五	二六	二〇
明戸	九五、八八	九四、六七	九五、三六	二七	二八
野呂	九三、二八	九七、七九	九五、一一	二八	三三
鈴川	九五、四一	九四、二五	九四、九四	二九	一三
白野	九四、五九	九四、七八	九四、六八	三〇	一〇
篠水	九四、一七	九四、九三	九四、五三	三一	三六
藏目	九五、四〇	九二、六五	九四、一一	三二	二六
奈喜	九四、九七	九二、五七	九三、八五	三三	三四
育古	九七、八四	九〇、二三	九三、六〇	三四	三五
大英	九四、九七	九一、一九	九三、二〇	三五	三七
高島	九四、四七	九一、八七	九三、一八	三六	二五
椿東	九三、八四	九〇、五三	九二、一六	三七	三二
小川					

町村立小學校高等科兒童出席歩合表（其二）

壹月分

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
生雲	九三、四〇	九〇、〇〇	九一、〇六	三八	四〇
吉部	九一、八八	九八、七八	九〇、三三	三九	三九
上川	八六、七八	八七、七三	八七、一八	四〇	三八
都平均本月	九六、〇一	九四、七一	九五、三八	一	一
前月	九七、〇〇	九六、一七	九六、四九	一	一
椿西	一〇〇、〇〇	九九、七五	九九、八八	一	一
嘉年	九九、四六	一〇〇、〇〇	九九、六六	二	二
明木	九九、一二	九九、八四	九九、三九	三	三
彌富	九八、五〇	一〇〇、〇〇	九八、九三	四	一一
篠目	九八、九三	九七、六九	九八、三三	五	二二
奈古	九七、二三	九九、二九	九八、一一	六	五
吉部	九六、九五	九九、〇九	九八、〇二	七	一三
宇田	九九、二三	九六、二五	九七、九三	八	六
大井	九七、六〇	九八、〇三	九七、七九	九	四
佐々並	九八、〇〇	九六、八八	九七、五三	一〇	九
三谷	九六、六〇	九九、〇〇	九七、二九	一一	八
高俣	九六、〇一	一〇〇、〇〇	九六、九八	一二	一〇

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
川上	九六、五二	九七、五六	九六、九一	一三	一二
生雲	九六、四三	九六、〇〇	九六、三七	一四	二〇
地福	九四、七三	九七、七九	九六、一九	一五	一六
育英	九五、九一	九六、六〇	九六、一〇	一六	七
紫福	九五、一二	九八、二二	九六、〇〇	一七	一九
白水	九八、三四	九一、八九	九五、四〇	一八	二五
明倫	九四、〇六	九六、三〇	九五、一八	一九	一七
大島	九三、二五	一〇〇、〇〇	九四、六〇	二〇	一四
德佐	九五、〇〇	九三、五九	九四、五七	二一	一八
椿東	九五、六一	九三、七六	九四、五五	二二	一五
小川	九三、五五	九六、一二	九四、二八	二三	二四
三見	九五、二一	九二、六三	九四、二七	二四	二一
見島	九四、〇二	—	九四、〇二	二五	二八
多磨	九三、八七	九四、二〇	九三、九四	二六	二三
福田	九〇、四七	九八、七五	九三、六五	二七	二七
福川	九三、〇六	九二、七六	九二、九六	二八	二六
郡平均 前月	九六、八二	九三、七六	九六、八四	—	—
郡平均 本月	九六、一七	九三、六四	九六、三九	—	—

二、町村立小學校兒童出席缺席狀況（第二學期）　阿武郡

種別	學期末現在兒童數	出席兒童數	缺席兒童數 病氣	缺席兒童數 其他事故	缺席兒童數 計	出席百分比例
尋常 男	七、四七八	六六七、五一三	九、八五四	一三、八四七	二三、七〇一	九六、五七
尋常 女	七、〇五三	六二五、九九八	八、五一七	二〇、〇八〇	二八、五九七	九五、六三
尋常 計	一四、五三一	一二九三、五一一	一八、三七一	三三、九二七	五二、二九八	九六、一一
高等 男	一、四六五	一三一、五六〇	一、八三二	三、六〇二	五、四三四	九六、〇三
高等 女	九三六	八四、四〇〇	九九〇	一、八三六	二、八二六	九六、七六
高等 計	二、四〇一	二一五、九六〇	二、八二二	五、四三八	八、二六〇	九六、三二
合計 男	八、九四三	七九九、〇七三	一一、六八六	一七、四四九	二九、一三五	九六、四八
合計 女	七、九八九	七一〇、三九八	九、五〇七	二一、九一六	三一、四二三	九五、九〇
合計 計	一六、九三二	一、五〇九、四七一	二一、一九三	三九、三六五	六〇、五五八	九六、一四

三、町村立尋常小學校兒童缺席狀況（第二學期）　阿武郡

種別	三十日以上	六十日以上	百日以上	五十日以上	二百日以上	全缺席	計
缺席初日ノ第一學期ニ屬スル者 男	一二九	三二	一一	一九	—	—	一九六
缺席初日ノ第一學期ニ屬スル者 女	一三〇	五九	×二	×一	—	×一	×三
缺席初日ノ第一學期ニ屬スル者 計			一九	一八	—	一八	二四四
缺席初日ノ第一學期ニ屬スル者			×一	×三		×一	×五

欠席初日ノ第二學期ニ屬スル者 男	欠席初日ノ第二學期ニ屬スル者 女	合計 男	合計 女
一四	二〇	一四三	一五〇
二 ×一	七	三四 ×一	六六
一	—	一二 ×二	一九 ×一
—	—	九 ×一	一八 ×三
—	—	—	—
三	一	一八	一九 ×一
二〇 ×一	二八	二一六 ×四	二七二 ×五

備考　×符號ハ第壹學期ヲ通シテ壹學期以上缺席者ヲ示ス

四、町村公民數調

大正十年十二月末

町村名＼種目	現行法ニヨルモノ	改正法ニヨルモノ	增	減
萩	一、二五三	一、八六四	六一一	—
椿東	八二四	一、二六三	四三九	—
椿	二七六	四一七	一四一	—
山田	五一二	七〇〇	一八八	—
三見	四四〇	六九三	二五三	—
明木	三三七	三七八	四一	—
佐々並	三八二	四三〇	四八	—
川上	五七九	六四二	六三	—
篠生	三六四	四三六	七二	—
生雲	五六三	七三四	一七一	—
地福	四四七	五四八	一〇一	—
德佐	八〇八	一、三〇〇	四九二	—
嘉年	三二〇	四四六	一二六	—
高俣	三三六	四九四	一五八	—
吉部	三九〇	四八八	九八	—
福川	六四二	八一二	一七〇	—
紫福	四一五	五一三	九八	—
大井	三九四	五一九	一二五	—
奈古	五七三	六五七	八四	—
宇田郷	二九九	三三一	三二	—
福賀	四五一	五二〇	六九	—
須佐	七〇九	一、〇三〇	三二一	—
彌富	四四八	五一五	六七	—
小川	七三九	八一〇	七一	—
田万崎	五一九	六六三	一四四	—
六島	一三五	二八八	一五三	—
見島	二九六	三五三	五七	—
合計	一三、四五一	一七、八四四	四、三九三	—

五、縣會議員選擧確定人員

（大正十年）

町村名	人員
萩	五八五
椿郷東分	二二六
椿	一七三
山田	一九八
三見	一八二
明木	一九八
佐々並	二四二
川上	二一四
篠生	一八五
生雲	二二五
地福	二一四
德佐	四〇八

町村名	人名
嘉年	一五五
高俣	一五三
吉部	一五五
福川	四一一
紫福	二三九
大井	一八九
奈古	一九三
宇田郷	一四三
福賀	二二八
須佐	二七三
彌富	二〇九
小川	三五五

六、部落ニ關スル調査（大正十年末）

町村名 ＼ 種目	部落數	戸數	人口	部落外居住 戸數	部落外居住 人口
萩	一	七八	四三五	八	三六
椿東村	一	四六	一七二	—	—
椿山	一	八〇	四一五	五	一五
三見	—	—	—	—	—
明木	—	—	—	—	—
佐々並	—	—	—	—	—
川上	—	—	—	—	—
篠生	一	七	四一	—	—
生雲	一	一二	七一	—	—
地福	—	—	—	—	—
德佐	一	二六	一〇六	—	—
嘉年	一	一二	四一	二	一〇
高俣	二	二一	九九	二	七
紫福	—	—	—	—	—
大井	一	一	一	—	—
福川	一	一三	七七	—	—
吉部	一	一九	一一八	二	九
合計	二三	三九〇	一、九八六	二五	一一四
見島	—	—	—	—	—
六島	—	—	—	—	—
田万崎	二	九	三五	—	—
小川	三	一〇	四六	二	一六
彌富	一	三	二六	—	—
須佐	二	—	—	—	—
福賀	二	一二	四三	四	二一
宇田郷	—	一	—	—	—
奈古	一	二二	一二一	—	—
大井	一	二二	一四〇	—	—
紫福	—	—	—	—	—
福川	一	一三	七七	—	—
吉部	一	一九	一一八	二	九
合計	二三	三九〇	一、九八六	二五	一一四

田万崎 一八六 六三
見島 合計 七二 六、〇七四

七、大正十年十二月陸軍入營人員

町村名 ＼ 種目	歩兵	騎兵	野砲兵	重砲兵	工兵	輜重兵	輜重兵	海軍兵團	航空隊	大砲隊	旅順	計
萩	二五											
椿東	一二	一	三	四	一	一						
椿山	一四				五							
三見	七			一	二	二						
明木	七	一		一		一						
佐々並	八				一		一					
川上	一一		一	一								
篠生	三			一		一						
生雲	七											
地福	五			一		一						
德佐	六											
嘉年	四				二							
高俣	三			一								
紫福	一											
大井	九											
福川	八		一	二								
吉部	二											
合計	三八	二	一	一	二	一	一	一	二	二	一	二
見島												
六島												
田万崎	二											
小川	二五											
彌富	一九											
須佐	二五											
福賀	一五											
宇田郷	一四											
奈古	一〇											
大井	一六											
紫福	六											
福川	一二											
吉部	七											
合計	二五	一	一	一	二	一	一	一	二	二	一	二

八、海軍志願兵体格並學力成績

大正十年
十壹年

町村	種目	志願者數		受檢者數		合格者數		受檢者對合格者百分比		成績順位		合格者學力平均點		成績順位	
		前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年
萩東		六	三	六	五	三	三	五〇、〇〇	一〇〇、〇〇	6	1	九二、七五	八三、八三	7	10
椿東		五	二	五	二	一	一	八〇、〇〇	五〇、〇〇	2	5	九〇、六七	九一、五〇	10	4
山田		三	三	二	一	一	一	三三、三三	一〇〇、〇〇	9	12	八九、五〇	八三、一五	12	11
三見		七	二	六	二	二	二	六六、六七	一〇〇、〇〇	4	3	九四、七五	七四、〇〇	5	15
明木		六	二	六	二	二	二	八〇、〇〇	一〇〇、〇〇	2	1	八六、七五	七八、〇〇	14	14
佐々並		一	一	一	一	一	一	一〇〇、〇〇	—	1	7	九二、〇〇	—	9	22
奈古		八	三	六	一	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	1	1	九七、五〇	六九、〇〇	3	17
宇田郷		四	二	六	一	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	2	3	九七、〇〇	—	4	22
福賀		三	一	一	一	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	1	7	八八、〇〇	八五、五〇	13	9
須佐		六	一	六	一	一	一	二〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	1	5	九五、〇〇	四五、五〇	21	22
彌富		六	二	六	二	一	一	二〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	1	5	八六、三三	七〇、〇〇	15	16
小川		六	一	六	一	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	1	1	八三、〇〇	六八、八三	17	18
田万崎		四	一	四	一	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	3	1	九一、三三	八二、〇〇	3	12
六島		九	一	一	一	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	6	4	九〇、〇〇	九七、〇〇	6	5
見島		三	一	一	一	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	4	1	九〇、〇〇	八二、〇〇	19	11
合計		一八五	二	五	一八	一二	九	一四	二	二〇	三〇	三	三	六	三〇九

町村	種目	志願者數		受檢者數		合格者數		受檢者對合格者百分比		成績順位		合格者學力平均點		成績順位	
		前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年
川上		三	一	三	一	二	一	六六、六七	一〇〇、〇〇	4	1	九七、五〇	六九、〇〇	3	17
篠生		五	四	五	四	三	二	六〇、〇〇	—	5	7	九七、〇〇	—	22	4
生雲		四	二	二	二	一	二	二五、〇〇	一〇〇、〇〇	10	1	八八、〇〇	八五、五〇	13	9
地福		一	一	一	一	—	—	—	—	12	7	—	—	21	22
德佐		二	二	二	二	—	—	—	五〇、〇〇	12	5	—	—	21	21
嘉年		三	一	三	一	一	一	一	一〇〇、〇〇	12	1	—	九二、〇〇	21	3
高俣		三	三	三	三	一	一	一	六〇、〇〇	1	4	九三、三三	九一、三三	6	5
吉部		四	三	四	三	一	一	七五、〇〇	三三、三三	3	6	六九、〇〇	九〇、〇〇	19	6
福川		九	五	八	五	三	三	三七、五〇	八〇、〇〇	8	2	九〇、〇〇	六七、五〇	11	19
紫福		八	六	八	六	一	一	一二、五〇	六六、六七	11	3	五二、〇〇	九九、二五	20	1
大井		五	二	四	二	—	—	七五、〇〇	—	3	7	八四、三三	—	16	22
奈古		三	三	三	三	一	一	一〇〇、〇〇	五〇、〇〇	1	5	八六、三三	七〇、〇〇	15	16
宇郷田		二	二	二	二	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	1	1	八三、〇〇	八二、〇〇	3	12
福賀		二	二	二	二	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	1	1	九七、五〇	六八、八三	17	18
須佐		二	二	二	二	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	1	1	九五、〇〇	八九、〇〇	2	2
彌富		三	一	三	一	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	1	1	八六、三三	八九、五〇	8	7
小川		二	一	二	一	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	1	1	八三、〇〇	八二、〇〇	16	13
田万崎		七	二	七	二	一	一	二八、五七	一〇〇、〇〇	1	4	九四、三三	六六、八三	21	20
六島		六	一	六	一	一	一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	1	1	八九、一七	一八、〇六	1	8
見島		七	二	六	二	一	一	二八、五七	一〇〇、〇〇	1	4	九九、〇〇	一〇〇、〇〇	8	1
明木		六	二	六	二	一	一	二八、五七	一〇〇、〇〇	2	1	八六、七五	九二、〇〇	14	14
佐々並		一	一	一	一	—	—	一〇〇、〇〇	—	1	7	九四、七五	七四、〇〇	5	15
合計		一八五	二	五	一八	一二	九	一四	二	二〇	三〇	三	三	六	三〇九

九、山口縣下海軍志願兵体格檢査學力成績　大正十一年

郡市別	志願者數 前年	志願者數 本年	受檢者數 前年	受檢者數 本年	合格者數 前年	合格者數 本年	受檢者對合格者百分比 前年	受檢者對合格者百分比 本年	成績順位 前年	成績順位 本年	合格者學力成績平均点 前年	合格者學力成績平均点 本年	成績順位 前年	成績順位 本年
玖珂郡	三〇一	一六四	二九二	一五八	一八七	九〇	六四、〇〇	五六、九六	3	10	八四、五〇	八一、五〇	5	7
大島郡	一五	一五	一四	一三	一二	七	八五、七一	五八、三三	1	9	八四、五〇	八一、五〇	5	7
熊毛郡	六二	五三	六〇	五三	三四	二五	五六、六七	四七、一七	9	13	七八、一〇	七七、七〇	9	11
都濃郡	九六	七三	九四	六九	五九	三七	六二、七七	五三、六二	5	12	八五、四〇	八二、六〇	4	4
佐波郡	九二	七四	八九	六五	五二	三七	五八、四三	五六、九二	8	11	八三、〇〇	八三、〇〇	6	3
厚狹郡	六八	四二	六三	四〇	四〇	二五	六三、四九	六二、五〇	4	4	七七、七〇	七五、六八	10	12
豐浦郡	七四	三五	七二	三五	三七	二一	五一、三九	六六、六七	11	8	八六、〇〇	七九、九二	3	9
大津郡	二八	二五	二七	二〇	一八	一六	五一、九二	六〇、〇〇	2	1	八一、八〇	八一、三一	7	8
阿武郡	一〇	七三	一〇四	七一	五四	四四	六〇、九八	五一、九七	6	6	八八、四〇	八一、七五	2	5
美禰郡	四二	三〇	四一	二九	二五	一八	六〇、一八	六一、〇七	5	7	八一、三〇	八八、一六	8	2
吉敷郡	二七	五四	二三	五二	六八	三三	六〇、一八	六一、五四	7	1	八六、七〇	八一、六四	1	6
下關市	一九	一〇	一七	九	六	六	三五、二九	六六、六七	12	3	九一、六一	九一、七五	3	1
字部市	—	一三	一七	一三	—	九	—	七五、〇〇	—	2	八二、五二	八一、四八	—	10
計	一、〇二三	六六〇	九八六	六二五	五九二	三六七	六〇、〇四	五八、七二	—	—	—	—	—	—

一〇、山口聯隊區管內受驗壯丁成績　大正十年

一一、阿武郡產米調査　大正十年

郡別	受檢人員	壯丁体格等位 甲種	乙種	丙種	丁種	戊種	壯丁學歷調査 中卒以上	高卒以上	尋卒以上	尋卒以下	無學	壯丁疾病 トラホーム	花柳病
熊毛郡	八四一	三二三	三六八	一一九	一五	一六	八〇	四八一	二三二	四一	八二	一四	一五
都濃郡	一、〇三五	三八三	四七五	一四一	二五	一一	八六	三七〇	四八三	八二	一四	一四八	一四
佐波郡	八四一	二九二	三八二	一二九	二六	一三	九五	四〇九	二九一	三八	三八	一二六	一二
吉敷郡	九七三	三四二	四二八	一五〇	一三	二〇	一三九	五二四	二五五	四二	一三	四五	一〇
美禰郡	四〇七	一五二	一六五	六六	一九	五	四三	二一五	一二六	一五	八	三三	六
大津郡	四八三	二〇二	一七二	八〇	一四	一五	二七	一九六	二二四	二八	二八	二八	一〇
阿武郡	一、〇六九	四六三	四一九	一三九	二八	二〇	九八	四二四	四七〇	六六	一二	七五	二〇
計	五、六四九	二、一五七	二、四〇九	八二四	一六〇	九九	五六八	二、六一九	二、〇八一	三一二	六九	六二七	八四

町村名 種目	作付段別	收穫高(玄米)	價額	壹段歩收穫高
萩	六五、二反	一、四〇七石	四九、三〇八円	二、一五八合
椿東	二三五、七	四、七五二	一八五、〇五〇	二、〇一六
椿	一五〇、九	二、八二九	一一一、二四四	一、八七五
山田	二〇七、一	三、七五八	一四七、八二〇	一、八一五
三見	一七七、〇	三、四五〇	一三八、一二七	一、九四九
明木	二三三、九	四、一五八	一五八、〇〇四	一、七七八
佐々並	三七〇、四	七、五六一	二八八、二八四	二、〇四一
川上	二一三、六	三、三三五	一二八、一八八	一、五三八

篠生	二八五、二	五、七五三	二、二〇、八四〇
生雲	四八九、七	八、〇九二	三二五、九二〇
地福	四四二、七	八、五九〇	三二八、〇五六
德佐	七五五、二	一三、一二四	五〇三、五五五
嘉年	三八九、九	五、二〇八	一九七、九〇五
高俱	四〇九、六	四、七四〇	一八〇、三九六
吉部	四九八、四	六、〇六五	二三一、一二〇
福川	五七一、七	八、六一九	三二四、四九〇
紫福	四七五、〇	六、一四七	二三八、二〇六
大井	一八一、八	四、〇九八	一五八、一一八
奈古	二六一、四	五、二七九	二〇四、三三一
字田鄉	一四四、七	二、一二〇	八〇、八七〇
福賀	四五七、一	六、二一〇	二三七、五二三
須佐	三三二、九	三、八〇六	一四七、四五六
彌富	二九四、一	三、八七六	一四七、二八八
小川	三八六、四	四、九〇八	一七五、一一四
田崎	二四九、一	三、一二五	一一九、三二〇
万島	五一	七七	二、九、二六
六島			一〇〇、六八九
見島	二三五、〇	二、六三一	五、一三〇、一四七
合計	八、五〇一、八	一三三、九一七	六一六八、〇二七
前年	八、六七二、三	一五六、二〇五	一、九〇六
			二、〇一七
			一、六五二
			一、九四〇
			一、七三七
			一、三三六
			一、一五七
			一、二一六
			一、五〇八
			一、二九四
			二、二五二
			二、〇二〇
			一、四六五
			一、三五九
			一、一四三
			一、三一八
			一、二六八
			一、二五五
			一、五一〇
			一、一二〇
			一、五七二
			一、九〇六